

23-A-14 拠点病院の日常診療データベースから  
新しい臨床仮説を創出するための研究

独立行政法人国立がん研究センター東病院 木下 平

## 研究の分類・属性

外科系その他

## 研究の概要

本研究班では国内の主要ながん専門医療施設およびがん診療連携拠点病院から得られる大規模な診療成績を集積して解析を加え、新しい臨床仮説を創出するとともに、具体的課題については、可能であれば臨床試験を含めた検証を行おうとするものである。これにより、がんの日常診療、専門医の教育体制について信頼性の高い指針を現場に提供することが期待され、この点で他に比類ない研究内容となっている。各小班の研究課題とその概要は次の通りである。

①胃がん肝転移の手術適応の研究：これまで単施設からの少数例の報告にとどまっていた切除症例を多施設で集積、解析することにより、合理的な切除適応に関する指針を確立する。②がん専門医療施設における診療データベースの構築とその評価に関する研究：レセプトデータダウンロード方式による診療記録データに基づくデータベースを構築して、治療法別のインデックスを集約した患者単位でのタイムライン資料の統合化を行なうとともに、施設単位での患者数のトレンド把握と予測を行うためのシステムを構築する。③大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究：外科手術例における診断、治療、フォローアップにおける創出された臨床仮説に対し、臨床試験によりこれを証明し、標準化を目指す。④がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法に関する研究：がん専門診療施設の卒後教育体制に関する国内外の調査結果に基づき、効率的かつ体系的な専門的卒後教育体制を提言する。⑤外来化学療法における標準的管理システムの構築と普及を目指した研究：外来化学療法における問題点を抽出し、標準的な管理システムの構築と体制整備、その普及を目指す。⑥過去の助成金時代の計画研究班で行われた臨床試験のうち、登録終了となった課題を当研究班に編入し、最終的に確定した成績を今後の診療指針として公表する。

なお、本研究班で臨床試験を行う場合には、倫理面に十分配慮したプロトコールを作成し、これに参加する各施設の倫理審査委員会の承認を求める。なお、データベースの設計・構築にあたっては、匿名化など個人情報保護に万全を期すことでプライバシーの秘匿を図る。

## 研究経費

44,000 千円

## 研究班の組織

木下 平	国立がん研究センター東病院・院長	拠点病院の日常診療データベースから新しい臨床仮説を創出するための研究・胃がん肝転移の外科治療に関する研究
江崎 稔	国立がん研究センター中央病院肝胆膵腫瘍科・医長	胃がん肝転移の外科治療に関する研究
齋浦明夫	公益法人がん研究会有明病院・消化器外科肝胆膵担当部長	胃がん肝転移の外科治療に関する研究

坂本裕彦	埼玉県立がんセンター・消化器外科 科長兼部長	胃がん肝転移の外科治療に関する研究
木下敬弘	国立がん研究センター東病院・上部 消化外科・医長	胃がん肝転移の外科治療に関する研究
石川ベンジャミン光一	国立がん研究センター がん対策情 報センター がん統計研究部・室長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
鈴木宏明	国立病院機構北海道がんセンター・ 臨床病理研究室長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
島村弘宗	国立病院機構仙台医療センター・外 科医長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
磯部 陽	国立病院機構東京医療センター・統 括診療部長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
永井宏和	国立病院機構名古屋医療センター・ 血液・腫瘍研究部部長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
辻仲利政	国立病院機構 大阪医療センター・が んセンター診療部長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
谷水正人	国立病院機構 四国がんセンター・統 括診療部長	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
久保田馨	日本医科大学内科学講座呼吸器感染 腫瘍内科部門・准教授	がん専門医療施設における診療データベース の構築とその評価に関する研究
森谷亘皓	国立がん研究センター中央病院、消 化管腫瘍科・下部消化管外科科長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
齋藤典男	独立行政法人国立がん研究センター 東病院・科長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
金光幸秀	愛知県がんセンター中央病院、消化 器外科部医長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
絹笠祐介	静岡県立静岡がんセンター・大腸外 科部長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
佐藤敏彦	山形県立中央病院・手術部副部長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
大植雅之	大阪府立病院機構大阪府立成人病セ ンター・消化器外科 副部長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
瀧井康公	新潟県立がんセンター新潟病院・外 科部長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
伴登宏行	石川県立中央病院・診療部長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
久保義郎	国立病院機構四国がんセンター・消 化器外科医長	大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を 目指した合意形成のための研究
新海 哲	国立病院機構四国がんセンター・院 長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整 備とその評価法の開発に関する研究
西山謹司	大阪府立成人病センター・副院長兼 放射線治療科部長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整 備とその評価法の開発に関する研究

加藤秀則	国立病院機構北海道がんセンター・統括診療部長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
丹羽康正	愛知県がんセンター中央病院・副院長兼内視鏡部部長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
藤也寸志	国立病院機構九州がんセンター・副院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
片井 均	国立がん研究センター中央病院・科長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
森 武生	東京都立駒込病院・名誉院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
後藤功一	国立がん研究センター東病院・外来医長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
高橋利明	静岡県立静岡がんセンター・医長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
室 圭	愛知県がんセンター中央病院・薬物療法部部長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
藤阪保仁	近畿大学医学部、内科学教室腫瘍内科部門・講師	外来化学療法における標準的管理システムの構築
梶原猛史	国立病院機構四国がんセンター・内視鏡科医師	外来化学療法における標準的管理システムの構築
近藤俊輔	国立がん研究センター中央病院・肝胆膵腫瘍科医員	外来化学療法における標準的管理システムの構築
武田晃司	大阪市立総合医療センター・臨床腫瘍センター長 兼臨床腫瘍科部長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
江崎泰斗	国立病院機構九州がんセンター・消化管腫瘍内科 医長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
栗本大嗣	埼玉県立がんセンター・呼吸器内科副部長	外来化学療法における標準的管理システムの構築
伊藤一人	群馬大学大学院医学系研究科・泌尿器科学、准教授	局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義に関する研究

## 研究の目的と到達目標及び実績要点

本研究班では国内の主要ながん専門医療施設およびがん診療連携拠点病院から得られる大規模な診療成績を集積して解析を加え、新しい臨床仮説を創出するとともに、具体的課題については、可能であれば臨床試験を含めた検証を行おうとするものである。これにより、がんの日常診療、専門医の教育体制について信頼性の高い指針を現場に提供することを目的とする

### 全期間

(目的と到達目標) :

- ①胃がん肝転移の手術適応の研究では、胃がん肝転移症例に対する外科切除は切除単独でも長期生存率が存在することから、症例を選択すれば有効な治療であることが判明している。しかし切除例での予後因子の解析は、単施設の症例数では限界があり、信頼性に乏しい。多施設の多数例を解析することにより、統計学的な信頼度が高まり、科学的な切除適応を指針として提示することが可能である。今年度は各施設の症例の概要を検討し、データベース構築のための項目設定を行い、次年度にデータベースを作成する。その後データ解析を行い、手術適応などに関するエビデンスレベルの高い指針を作成することを目標とする。

- ②がん専門医療施設における診療データベースの構築とその評価に関する研究では、がん専門診療施設において臨床研究等に役立てることができる診療記録の汎用的な患者インデックスを構築し、その効用と限界についての評価を行なう。具体的には、レセプトデータダウンロード方式による診療記録データを入院・外来に渡り集積するデータベースを構築し、治療法個別のインデックスを集約した患者単位の包括的なタイムライン資料の統合化を行なう。また、これに基づき施設単位での患者数のトレンド把握と予測を行うためのシステムを構築することを目指す。
- ③大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究では、合理的フォローアップ標準化のための臨床試験が症例集積を終了し2013年に解析予定。T1, T2 下部直腸癌に対する補助療法併用縮小手術の評価の前向き症例集積の研究は、昨年症例集積を終了し、3年後の解析予定。進行直腸がんに対する術前放射線化学療法の第1相試験は症例集積が開始されており、今後は第2相試験に進む予定。待機的大腸がん患者の閉創における真皮縫合の意義を問う比較試験は昨年から症例集積が開始されており、現在中間解析中。待機手術可能なStage IV大腸がんに対する原発巣切除の意義に関する第Ⅲ相比較試験と大腸がん切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験は現在症例を集積中である。最終的にはこれらのプロトコール解析、論文化が目標である。
- ④がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法に関する研究では、コアカリキュラムは米国臨床腫瘍学会(ASCO)と欧州臨床腫瘍学会(ESMO)の共通コアカリキュラム(日本臨床腫瘍学会訳)を採用(3学会より使用許可を取得)し米国腫瘍外科学会(SSO)のトレーニングも参考、研修記録はクリティカルパスを応用、評価は研修医自身および指導医による3次元評価によるポートフォリオを作成し改訂、電子化(Web版ポートフォリオ)を行い現在試用中であるが、その評価改訂作業に加え、がんプロフェッショナル養成プラン(中四国広域医療人養成プラン)と連動して試用予定。レジデント、フェローの人材確保(インセンティブ)の方策を検討予定。また、指導医の継続的なやる気への支援策、合理的評価法の提案が目標である。
- ⑤外来化学療法における標準管理システムの構築と普及を目指した研究では増加の一途をたどる外来化学療法を安全かつ効率的に行うための管理システムとその体制整備を行い、均てん化を目指す。今年度は外来化学療法における標準的管理システムの構築を行い、来年度以降は管理システムに基づいた外来化学療法体制の整備、さらにその普及を目指す。
- ⑥局所進行前立腺がんのRCTは2010年11月に経過観察期間の中央値が8年に達し、今年度内に最終のCRFをすべて回収予定。来年度最終解析、論文作成予定である。

#### 第1年次

(到達目標)

- ①胃がん肝転移の外科切除の研究では今年度は各施設の症例の概要を検討し、データベース構築のための項目設定を検討することである。
- ②がん専門医療施設における診療データベースの構築とその評価に関する研究では、入院・外来データを連結したファイルデータベースの設計と実装を行なうこと。薬物療法に関する患者の治療経過インデックスを開発すること。
- ③大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究では、合理的フォローアップ標準化のための臨床試験、T1, T2 下部直腸癌に対する補助療法併用縮小手術の評価の前向き症例集積の研究は症例集積が終了しており、経過観察中。進行直腸がんに対する術前放射線化学療法の第1相試験は症例集積中本年度中に終了予定。待機的大腸がん患者の閉創における真皮縫合の意義を問う比較試験は今年度中に中間解析を行う予定。待機手術可能なStage IV大腸がんに対する原発巣切除の意義に関する第Ⅲ相比較試験と大腸がん切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験は現在プロトコールを完成し、症例集積を開始するのが目標。
- ④がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法に関する研究では、コアカリキュラムはASCO/ESMOの共通コアカリキュラム(日本臨床腫瘍学会訳)を採用しSSOのトレーニングも参考、研修記録はクリティカルパスを応用、評価は研修医自身および指導医による3次元評価のポートフォリオを作成し改訂、電子化を行い現在試用中。試用した結果に基づき、その評価改訂作業を行う。
- ⑤外来化学療法における標準管理システムの構築と普及を目指した研究では増加の一途をたどる外来化学療法を安全かつ効率的に行うための管理システムとその体制整備目標とし、今年度は各施設の現状を参考に、外来化学療法における標準的管理システムの構築(外来化学療法の実施システム、医師、看護師、薬剤師の診療体制、有害事象の管理システム)。
- ⑥局所進行前立腺がんのRCTは最終的なCRFの完全回収が目標。

(年次評価時点の実績要点)

- ①各施設における胃がん肝転移切除例の治療成績を検討した結果、参加施設の5年生存率はほぼ30%前後であり、切除単独の長期生存例も存在することも加味し、切除の意義はあると考えられた。単施設のみの多変量解析では生存に寄与する予後因子が解析により変化してしまうため、多数例での信頼性の高い多変量解析で得られた予後因子

を参考に手術適応を検討すべきであることが確認された。

- ②化学療法の実施日・レジメン情報に基づく患者データに抗癌剤の投与に伴う支持療法薬の使用に関するデータを追加して、薬物療法に関する治療経過をまとめたインデックスを開発した。
- ③大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究では、合理的フォローアップ標準化のための臨床試験、T1, T2 下部直腸癌に対する補助療法併用縮小手術の評価の前向き症例集積の研究は症例集積が終了しており、経過観察中。進行直腸がんに対する術前放射線化学療法の第1相試験、待機的大腸がん患者の閉創における真皮縫合の意義を問う比較試験は症例集積中。待機手術可能な Stage IV大腸がんに対する原発巣切除の意義に関する第Ⅲ相比較試験と大腸がん切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験は現在プロトコルを完成し、倫理委員会へ申請を行った。
- ④がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法に関する研究では、コアカリキュラムは ASCO/ESMO の共通コアカリキュラムの日本臨床腫瘍学会訳を採用、研修記録はクリティカルパスを応用、評価は研修医自身および指導医による3次元評価によるポートフォリオを作成し、インターネットの環境であれば何処からでも加筆・編集・ダウンロードした資料などを添付できる Web 版ポートフォリオを作成した。このような Web 版ポートフォリオは世界的に類をみない。使用した研修医からは良い評価を得た一方、改定すべき課題点も指摘された。分担研究施設におけるレジデント・フェローの人材確保には地域差・施設差があり今後の人材確保に向けて小班の取り組みを検討した。「がんプロフェッショナル養成プラン」との連携を模索した。
- ⑤外来化学療法における標準管理システムの構築と普及を目指した研究では、増加の一途をたどる外来化学療法を安全かつ効率的に行うための管理システムの構築、体制整備を目標としており、今年度は各施設の現状を参考に以下を実施した。
  1. 我が国の主ながん拠点病院 10 施設の医師、看護師、薬剤師に本研究への協力を依頼し、現在の日本の医療事情に沿った安全で適正な外来化学療法の管理システムを構築するための必要条件として、16 項目からなるガイドラインを完成させた。
  2. 外来化学療法における標準的な薬剤師、看護師の診療体制の条件として、それぞれ 7 項目からなるガイドラインを完成させた。
  3. 外来化学療法による重篤な有害事象の発生をコントロールするために、患者から直接の電話相談が可能となる薬剤師・看護師によるホットライン、薬剤師による外来診療の体制整備を各施設で推進している途中である。既にホットライン、薬剤師外来共に、研究参加 10 施設のうち 7 施設で完備/準備中である。
- ⑥ CRF の回収がほぼ終わり、データスクリーニングが約半数の CRF で完了した。

## 研究成果と考察

### 第1年次評価時点

- ①胃がん肝転移の外科切除の研究では今年度は各施設の症例の概要が報告された。癌研有明病院 75 例、国立がん研究センター 68 例、同東病院 56 例、埼玉県立がんセンター 53 例で多変量解析による有意な予後因子は様々で共通するものは少なかった。合計 252 例の症例が解析可能であり、共通データベース作成のための入力項目の検討を行い、現在 format を作成中である。
- ②がん専門医療施設における診療データベースの構築とその評価に関する研究では、レセプトデータダウンロード方式による EF ファイル等を利用して、入院・外来に渡る診療行為データベースを構築し、化学療法の実施日に関する患者インデックスの作成を行なった。この実施日・レジメン情報を基礎として抗癌剤の投与に伴う支持療法薬の使用に関するデータを追加し、薬物療法に関する治療経過をまとめたインデックスを開発した。
- ③大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究では、合理的フォローアップ標準化のための臨床試験、T1, T2 下部直腸癌に対する補助療法併用縮小手術の評価の前向き症例集積の研究は、症例集積を終了し追跡中。進行直腸がんに対する術前放射線化学療法の第1相試験は症例集積中であるが今年度中に終了解析予定。待機的大腸がん患者の閉創における真皮縫合の意義を問う比較試験は現在 870 例（予定は 1240 例）集積、現在中間解析中。待機手術可能な Stage IV大腸がんに対する原発巣切除の意義に関する第Ⅲ相比較試験と大腸がん切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験はほぼプロトコルが完成した。
- ④がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法に関する研究では、コアカリキュラムは ASCO/ESMO の共通コアカリキュラムの日本臨床腫瘍学会訳を採用し SS0 のトレーニングも参考、研修記録はクリティカルパスを応用、評価は研修医自身および指導医による3次元評価のポートフォリオを作成し改訂、電子化を行い現在試用中で九州がんセンターの2名のレジデント、四国がんセンター3名のレジデント・フェローに使用した結果、有用性が確認されたが、コアカリキュラムの到達目標が漠然としているという問題点も指摘され、それに基づきポートフォリオの具体的な改定作業を行った。

- ⑤外来化学療法における標準管理システムの構築と普及を目指した研究では今年度は各施設の現状を参考に、外来化学療法における標準的管理システム（外来化学療法の実施システム、医師、看護師、薬剤師の診療体制、有害事象の管理システム）を構築した。
- ⑥局所進行前立腺がんの RCT は現在最終的な C R F の回収作業中であり、本登録 5 年以内再発中止症例で 77%、5 年以上非再発継続症例で 58% の回収率であり、現在鋭意督促中。

## 倫理面への配慮

本研究における倫理面への配慮としては、臨床試験の倫理性、安全性を重要課題と位置付け、すべての試験でインフォームドコンセントを実施している。説明同意文書を用いた十分な説明ののち、患者本人からの自筆の同意を原則としている。多施設臨床試験野場合は、倫理面に十分配慮したプロトコールを作成し、傘下各施設の倫理審査委員会の承認を得た上で臨床試験を実施する。データベースの設計、構築にあたっては、匿名化などの仕組みを導入し、個人情報の保護に万全を期す。本研究では個人が特定できないようプライバシーの保護を優先課題として取り組んでいる。

## 本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

### (雑誌論文)

小西 大

Kobayashi, S., Konishi, M., Kato, Y., Gotohda, N., Takahashi, S., Kinoshita, T., Kinoshita, T., Kojima, M., Surgical Outcomes of Multicentric Adenocarcinomas of the Biliary Tract, Jpn J Clin Oncol, 2011, 41(9): 1079-1085.

Kawashima, M., Kohno, R., Nakachi, K., Nishio, T., Mitsunaga, S., Ikeda, M., Konishi, M., Takahashi, S., Gotohda, N., Arahira, S., Zenda, S., Ogino, T., Kinoshita, T.,

Dose-Volume Histogram Analysis of the Safety of Proton Beam Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma, Int J Radiat Oncol Biol Phys, 2011, 79(5): 1479-86.

Nobuoka, D., Gotohda, N., Kato, Y., Takahashi, S., Konishi, M., Kinoshita, T., Influence of excess body weight on the surgical outcomes of total gastrectomy, Surgery Today, 2011, 41(7): 928-34.

Takahashi, S., Kinoshita, T., Konishi, M., Gotohda, N., Kato, Y., Kobayashi, T., Mitsunaga, S., Nakachi, K., Ikeda, M., Borderline resectable pancreatic cancer: rationale for multidisciplinary treatment, J Hepatobiliary Pancreat Sci, 2011, 18(4): 567-74.

Kobayashi, S., Takahashi, S., Kato, Y., Gotohda, N., Nakagohri, T., Konishi, M., Kinoshita, T., Surgical treatment of lymph node metastases from hepatocellular carcinoma, J Hepatobiliary Pancreat Sci, 2011, 18(4): 559-66.

Kobayashi, S., Konishi, M., Kato, Y., Gotohda, N., Takahashi, S., Kinoshita, T., Kinoshita, T., Kojima, M., Surgical Outcomes of Multicentric Adenocarcinomas of the Biliary Tract, Jpn J Clin Oncol, 2011, 41(9): 1079-85.

門田一晃、中郡聡夫、小嶋基寛、加藤祐一郎、後藤田直人、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(症例報告)胆嚢転移を来した原発性肝細胞癌の 1 切除例、日本消化器外科学会雑誌、2011、44(3): 259-65.

細川勇一、中郡聡夫、小西 大、高橋進一郎、後藤田直人、加藤祐一郎、小嶋基寛、木下 平、(症例報告)術後 7 年無再発生存中の胆管癌と膵癌の同時性重複癌の 1 例、日本消化器外科学会雑誌、2011、44(4): 428-34.

檜垣栄治、後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、加藤祐一郎、木下 平、腎細胞癌術後に 17 個の膵内転移をきたし膵全摘術にて切除しえた 1 例、膵臓、26(4): 517-23.

門田一晃、後藤田直人、加藤祐一郎、高橋進一郎、小西 大、木下 平、術後早期に再発をきたし死亡した膵腺扁平上皮癌の 1 例、臨床外科、2011、66(6): 845-49.

高橋進一郎、小西 大、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、小林達伺、池田公史、仲地耕平、光永修一、大野 泉、木下 平、予後、再発部位、術後補助化学療法の効果—Borderline Resectable 膵癌と切除可能膵癌の比較—、胆と膵、2011、32(7): 641-5.

信岡大輔、中郡聡夫、北田浩二、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、高橋進一郎、小西大、小嶋基寛、木下 平、造影早期相から濃染する慢性ウイルス性肝炎併存肝内胆管癌の切除後に大動脈周囲リンパ節転移を再切除して長期生存中の 1 例、日本消化器外科学会雑誌、2011、44(9): 1142-50.

木下 平

Kawashima, M., Kohno, R., Nakachi, K., Nishio, T., Mitsunaga, S., Ikeda, M., Konishi, M., Takahashi, S., Gotohda,

N., Arahira, S., Zenda, S., Ogino, T., Kinoshita, T., Dose-Volume Histogram Analysis of the Safety of Proton Beam Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma, *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 2011, 79(5): 1479-86.

Takahashi, S., Kinoshita, T., Konishi, M., Gotohda, N., Kato, Y., Kobayashi, T., Mitsunaga, S., Nakachi, K., Ikeda, M., Borderline resectable pancreatic cancer: rationale for multidisciplinary treatment, *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 2011, 18(4): 567-74.

Kobayashi, S. Takahashi, S., Kato, Y., Gotohda, N., Nakagohri, T., Konishi M., Kinoshita, T., Surgical treatment of lymph node metastases from hepatocellular carcinoma, *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 2011, 18(4): 559-66.

Miyashiro, I., Furukawa, H., Sasako, M., Yamamoto, S., Nashimoto, A., Nakajima, T., Kinoshita, T., Kobayashi, O., Arai, K., ;The Gastric Cancer Surgical Study Group in the Japan Clinical Oncology Group, Randomized clinical trial of adjuvant chemotherapy with intraperitoneal and intravenous cisplatin followed by oral fluorouracil (UFT) in serosa-positive gastric cancer versus curative resection alone: final results of the Japan Clinical Oncology Group trial JCOG9206-2, *Gastric Cancer*, 2011, 14(3): 212-8.

Nobuoka, D., Gotohda, N., Kato, Y., Takahashi, S., Konishi, M., Kinoshita, T., Influence of excess body weight on the surgical outcomes of total gastrectomy, *Surgery Today*, 2011, 41(7):928-34.

Kobayashi, S., Konishi, M., Kato, Y., Gotohda, N., Takahashi, S., Kinoshita, T., Kinoshita, T., Kojima, M., Surgical Outcomes of Multicentric Adenocarcinomas of the Biliary Tract, *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(9):1079-85.

門田一晃、後藤田直人、加藤祐一郎、高橋進一郎、小西 大、木下 平、術後早期に再発をきたし死亡した膵腺扁平上皮癌の1例、*臨床外科*、2011、66(6) : 845-849.

高橋進一郎、小西 大、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、小林達伺、池田公史、仲地耕平、光永修一、大野 泉、木下 平、予後、再発部位、術後補助化学療法の効果—Borderline Resectable 膵癌と切除可能膵癌の比較—、*胆と膵*、32(7) : 641-5.

門田一晃、中郡聡夫、小嶋基寛、加藤祐一郎、後藤田直人、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(症例報告)胆嚢転移を来した原発性肝細胞癌の1切除例、*日本消化器外科学会雑誌*、2011、44(3) : 259-65.

細川勇一、中郡聡夫、小西 大、高橋進一郎、後藤田直人、加藤祐一郎、小嶋基寛、木下 平、(症例報告)術後7年無再発生存中の胆管癌と膵癌の同時性重複癌の1例、*日本消化器外科学会雑誌*、2011、44(4) : 428-34.

信岡大輔、中郡聡夫、北田浩二、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、小嶋基寛、木下 平、造影早期相から濃染する慢性ウイルス性肝炎併存肝内胆管癌の切除後に大動脈周囲リンパ節転移を再切除して長期生存中の1例、*日本消化器外科学会雑誌*、2011、44(9) : 1142-50.

檜垣栄治、後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、加藤祐一郎、木下 平、腎細胞癌術後に17個の膵内転移をきたし膵全摘術にて切除しえた1例、*膵臓*、26(4) : 517-23.

門田一晃、後藤田直人、杉藤正典、木下敬弘、斎藤典男、木下 平、同じ4ポートで腹腔鏡下S状結腸切除および肝部分切除術を同時施行した結腸癌同時性肝転移の1例、*日本内視鏡外科学会雑誌*、2011、16(5) : 607-11.

齋浦明夫

Yoshioka, R., Saiura, A., Koga, R., Seki, M., Kishi, Y., Yamamoto, J., Predictive factors for bile leakage after hepatectomy: analysis of 505 consecutive patients, *World J Surg*, 2011, 35(8):1898-903.

Kishi, Y., Saiura, A., Yamamoto, J., Koga, R., Seki, M., Morimura, R., Yoshioka, R., Kokudo, N., Yamaguchi, T., Significance of anatomic resection for early and advanced hepatocellular carcinoma, *Langenbecks Arch Surg*, 2012 Jan, 397(1) :85-92.

齋浦明夫、古賀倫太郎、有田淳一、比企直樹、佐野武、山口俊晴、【StageIV 胃癌治療への挑戦】胃癌肝転移に対する肝切除の適応、*消化器外科*、2011、34(5) : 553-8.

古賀倫太郎、齋浦明夫、吉岡龍二、竹村信行、岸庸二、関 誠、峯 真司、山田和彦、布部創也、比企直樹、谷村慎哉、大山繁和、佐野 武、小西 毅、藤本佳也、長山 聡、福長洋介、上野雅資、山本順司、山口俊晴、StageIV 胃癌に対する外科治療の現状と方向性 胃癌肝転移に対する肝切除の適応、*日本外科学会雑誌*、2011、112(臨増)1-2:269.

永井宏和

Nagai, H., Ogura, M., Kusumoto, S., Takahashi, N., Yamaguchi, M., Takayama, N., Kinoshita, T., Motoji, T., Ohyashiki, K., Kosugi, H., Matsuda, S., Ohnishi, K., Omachi, K., Hotta, T., Cladribine combined with rituximab (R-2-CdA) therapy is an effective salvage therapy in relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma, *Eur J Haematol*, 2011, 86(2):117-123.

Tobinai, K., Igarashi, T., Itoh, K., Kurosawa, M., Nagai, H., Hiraoka, A., Kinoshita, T., Uike, N., Ogura, M., Nawano, S., Mori, S., Ohashi, Y., ; IDEC-C2B8 Study Group, Rituximab monotherapy with eight weekly infusions for relapsed or refractory patients with indolent B cell non-Hodgkin lymphoma mostly pretreated with rituximab: a multicenter phase II study, *Cancer Sci*, 2011, 102(9):1698-705.

永井宏和、ホジキンリンパ腫診療の現在、*Trends in Hematological Malignancies*、2011、3(1) : 8-13.

永井宏和、リンパ系腫瘍：診断と治療の進歩—成熟B細胞性リンパ腫、日本内科学雑誌、2011、100(7)：1823-41. 永井宏和、エイズ関連悪性リンパ腫病状の特徴と治療戦略、血液内科、2011、63(4)：443-50.

永井宏和、マントル細胞リンパ腫：Bendamustineにより予後は改善したか、血液フロンティア、2011、21(10)：61-8.

永井宏和、腫瘍崩壊症候群の病態と治療、Medicament News、2011、2068：7-8.

永井宏和、ベンダムスチン臨床データの検討と実地診療におけるベストプラクティス、日経CME、2011、1-7.

谷水正人

Teramoto, N., Tanimizu, M., Validation analysis of Japanese histological classification of breast cancer using the National Summary of Hospital Cancer Registry 2007, Japan. Cancer Sci, 2011, 102(8):1597-601.

谷水正人、がん診療と地域連携、medicina 2011、12月号掲載予定.

森田純子、薬師神芳洋、児島 洋、恒岡菊江、藤原光子、森ひろみ、山下広恵、山口育子、藤田高子、矢野琢也、松久哲章、岡田憲三、白石 猛、原 雅道、松野 剛、谷水正人、愛媛県がん診療連携拠点病院における外来化学療法室の現状と問題点 愛媛県がん診療連携拠点病院・がんの集学的治療に関する分科会、癌と化学療法、2011、38(4)：599-605.

鈴木宏明

Suzuki, H., Yamashiro, Takeda, H., Nojima, T., Usui, M., Extra-axial soft tissue chordoma of wrist, Pathol Res Pract, 2011, 115:207(5):327-31.

森谷亘皓

Shiomi, A., Ito, M., Saito, N., Ohue, M., Hirai, T., Kubo, Y., Moriya, Y., Diverting stoma in rectal cancer surgery. A retrospective study of 329 patients from Japanese cancer centers, Int J Colorectal Dis, 2011, 26(1):79-87.

Hamaguchi, T., Shirao, K., Moriya, Y., Yoshida, S., Kodaira, S., Ohashi, Y., The NSAS-CC Group, Final results of randomized trials by the National Surgical Adjuvant Study of Colorectal Cancer (NSAS-CC), Cancer Chemother Pharmacol, 2011, 67:587-96.

石黒成治、上原圭介、稲田 涼、山本聖一郎、藤田 伸、赤須孝之、森谷亘皓、7. 腹会陰式直腸切断術、特集 はじめての手術手技—どのように教えるか—、外科、2011、73: 373-8.

森谷亘皓、島田安博、濱口哲弥：(JCOG 大腸がんグループ 国立がん研究センター中央病院)、大腸癌の外科治療に関するわが国の臨床試験、特集 いま必要な外科治療に関する臨床試験の最新知識、臨床外科、2011、66: 610-6.

森谷亘皓、赤須孝之、藤田 伸、山本聖一郎、稲田 涼、高和 正、6. 下部直腸癌側方リンパ節転移の治療—JCOG0212からJCOG XXへ—、直腸癌治療の最近の動向、日本外科学会雑誌、2011、112(5):325-9.

赤須孝之

Takawa, M., Masuda, K., Kunizaki, M., Daigo, Y., Takagi, K., Iwai, Y., Cho, HS., Toyokawa, G., Yamane, Y., Maejima, K., Field, HI., Kobayashi, T., Akasu, T., Sugiyama, M., Tsuchiya, E., Atomi, Y., Ponder, BA., Nakamura, Y., Hamamoto, R., Validation of the histone methyltransferase EZH2 as a therapeutic target for various types of human cancer and as a prognostic marker, Cancer Sci, 2011 Jul, 102(7):1298-305.

Yamamoto, S., Fujita, S., Akasu, T., Inada, R., Takawa, M., Moriya, Y., Short-term outcomes of laparoscopic intersphincteric resection for lower rectal cancer and comparison with open approach, Dig Surg, 2011, 28(5-6):404-9.

森谷亘皓、赤須孝之、藤田 伸、山本聖一郎、稲田 涼、高和 正、6. 下部直腸癌側方リンパ節転移の治療—JCOG0212からJCOG XXへ—、直腸癌治療の最近の動向、日本外科学会雑誌、2011、112(5):325-9.

川井章、森谷亘皓、赤須孝之、他、直腸癌局所再発に対する仙骨合併骨盤内臓全摘術(TPES)：仙骨切除を中心に、外科、2011、12:73(13):1461-66.

赤須孝之、大腸癌の内視鏡検査・診断、超音波内視鏡による直腸癌の深達度診断 大腸癌—最新の研究動向 大腸癌の検査・診断、日本臨床、2011、4(69):269-74.

赤須孝之、骨盤内臓全摘術、特集 最新 大腸癌手術、手術、2011、8;65(9):1259-65.

齋藤典男

Nishizawa, Y., Fujii, S., Saito, N., Ito, M., Ochiai, A., Sugito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., The association between anal function and neural degeneration after preoperative chemoradiotherapy followed by intersphincteric resection, Dis Colon & Rectum, 2011, 54(11):1423-9.

Shiomi, A., Ito, M., Saito, N., Hirai, T., Ohue, M., Kubo, Y., Takii, Y., Sudo, T., The indications for a diverting stoma in low anterior resection for rectal cancer:a prospective multicentre study of 222 patients from Japanese cancer centers, Colorectal Dis, 2011, 13(12):1384-9.

Nishizawa, Y., Ito, M., Saito, N., Suzuki, T., Sugito, M., Tanaka, T., Male sexual dysfunction after rectal cancer surgery, Int J Colorectal Dis, 2011, 26(12):1541-8.



Yoneyama, Y., Ito, M., Sugito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., Saito, N., Postoperative Lymphocyte Percentage Influences the Long-term Disease-free Survival Following a Resection for Colorectal Carcinoma, *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(3):343-347.

Watanabe, K., Saito, N., Sugito, M., Ito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., Predictive factors for pulmonary metastases after curative resection of rectal cancer without preoperative chemoradiotherapy, *Dis Colon Rectum*, 2011, 54(8):989-98.

Kobayashi, S., Ito, M., Sugito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., Saito, N., Association between incisional surgical site infection and the type of skin closure after stoma closure, *Surg Today*, 2011, 41(7):941-5.

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、下部直腸癌に対する周術期（術前・術後）化学放射線療法の有用性、大腸癌—最新の研究の動向—、VIII. 大腸癌の治療戦略放射線療法、*日本臨床*、2011、69(3):500-4.

甲田貴丸、伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、西澤祐吏、中嶋健太郎、術前放射線化学療法のISR術後肛門機能へ与える影響、癌の臨床、2011、56(8):579-84.

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、直腸癌に対する低位前方切除、手術、2011、65(6):905-12.

齋藤典男、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、杉藤正典、直腸癌に対する肛門温存手術、日外会誌、2011、112(5):318-24.

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、中嶋健太郎、甲田貴丸、神山篤史、錦織英知、大柄貴寛、佐藤雄、邑田 悟、横田 満、超低位直腸癌における治療方針の検討、日外会誌、2011、112 臨時増刊号(1.2):228.

西澤祐吏、伊藤雅昭、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、直腸癌に対する腹腔鏡下前方切除における助手の役割、日鏡外会誌、2011、16:125-30.

金光幸秀

Shitara, K., Matsuo, K., Kondo, C., Takahari, D., Ura, T., Inaba, Y., Yamaura, H., Sato, Y., Kato, M., Kanemitsu, Y., Komori, K., Ishiguro, S., Sano, T., Shimizu, Y., Muro, K., Prolonged Survival of Patients with Metastatic Colorectal Cancer following First-Line Oxaliplatin-Based Chemotherapy with Molecular Targeting Agents and Curative Surgery, *Oncology*, 2011, 1;81(3-4):167-74.

Komori, K., Kanemitsu, Y., Ishiguro, S., Shimizu, Y., Sano, T., Kato, T., Analysis of Lymph Node Metastatic Pattern according to the Depth of In-Growth in the Muscularis Propria in T2 Rectal Cancer for Lateral Lymph Node Dissection, *Dig Surg*, 2011, 28;28(5):352-9.

Watanabe, T., Itabashi, M., Shimada, Y., Tanaka, S., Ito, Y., Ajioka, Y., Hamaguchi, T., Hyodo, I., Igarashi, M., Ishida, H., Ishiguro, M., Kanemitsu, Y., Kokudo, N., Muro, K., Ochiai, A., Oguchi, M., Ohkura, Y., Saito, Y., Sakai, Y., Ueno, H., Yoshino, T., Fujimori, T., Koinuma, N., Morita, T., Nishimura, G., Sakata, Y., Takahashi, K., Takiuchi, H., Tsuruta, O., Yamaguchi, T., Yoshida, M., Yamaguchi, N., Kotake, K., Sugihara, K., Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum) guidelines 2010 for the treatment of colorectal cancer, *Int J Clin Oncol*, 2011 Oct 15 [Epub ahead of print].

Komori, K., Kanemitsu, Y., Ishiguro, S., Shimizu, Y., Sano, T., Ito, S., Abe, T., Senda, Y., Misawa, K., Ito, Y., Uemura, N., Kato, T., Clinicopathological study of poorly differentiated colorectal adenocarcinomas: comparison between solid-type and non-solid-type adenocarcinomas, *Anticancer Res*, 2011, 31(10):3463-7.

Takakura, Y., Okajima, M., Kanemitsu, Y., Kuroda, S., Egi, H., Hinoi, T., Tashiro, H., Ohdan, H., External validation of two nomograms for predicting patient survival after hepatic resection for metastatic colorectal cancer, *World J Surg*, 2011, 35(10):2275-82.

絹笠祐介

Kinugas, Y., Arakawa, T., Abe, S., Ohtsuka, A., Suzuki, D., Murakami, G., Fujimiya, M., Sugihara, K., Anatomical Reevaluation of Anococcygeal Ligament and Its Surgical Relevance, *Dis Colon Rectum*, 2011, 54(2):232-7.

山口智弘、絹笠祐介、塩見明生、森谷弘乃介、富岡寛行、塚本俊輔、坂東悦郎、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典、腹膜播種を伴う原発性大腸癌に対する外科的治療の成績、*日本消化器外科学会雑誌*、2011、44(10):1231-8.

北村謙太、齋藤修治、塩見明生、絹笠祐介、山口茂樹、草深公秀、金本秀行、坂東悦郎、上坂克彦、寺島雅典、CPT-11+CDDP療法が奏功し長期生存中の内分泌分化を伴う非治癒切除S状結腸癌の1例、*日本消化器外科学会雑誌*、2011、44(8):1047-54.

渡部 顕、齋藤修治、橋本洋右、賀川弘康、別宮絵美真、富岡寛行、塩見明生、絹笠祐介、TMN 第7版による結腸癌 Stage III 細分類の妥当性の検証、*日本大腸肛門病学会雑誌*、2011、64(1):6-10.

富岡寛行、齋藤修治、絹笠祐介、塩見明生、橋本洋右、草深公秀、Micropapillary carcinoma 成分を含んだ直腸癌の1例、*臨床外科学会雑誌*、2011、66(5):697-700.

大植雅之

Kondo, J., Endo, H., Okuyama, H., Ishikawa, O., Iishi, H., Tsujii, M., Ohue, M., Inoue, M., Retaining cell-cell contact enables preparation and culture of spheroids composed of pure primary cancer cells from colorectal

cancer, Proc Natl Acad Sci U S A, 2011, 108(15):6235-40.

瀧井康公

Shimada, Y., Takii, Y., Maruyama, S., Ohta, T., Intramural and mesorectal distal spread detected by whole-mount sections in the determination of optimal distal resection margin in patients undergoing surgery for rectosigmoid or rectal cancer without preoperative therapy, Dis Colon Rectum, 2011, 54(12):1510-20.

Akagi, Y., Shirouzu, K., Fujita, S., Ueno, H., Takii, Y., Komori, K., Ito, M., Sugihara, K., ;on behalf of the Study Group of the Japanese Society for Cancer of the Colon Rectum (JSCCR) on the Clinical Significance of the Mesorectal Extension of Rectal Cancer, Predicting oncologic outcomes by stratifying mesorectal extension in patients with pT3 rectal cancer:A Japanese multi-institutional study, Int J Cancer, 2011, 25[Epub ahead of print].

Shirouzu, K., Akagi, Y., Fujita, S., Ueno, H., Takii, Y., Komori, K., Ito, M., Sugihara, K., ;Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) on Clinical Significance of the Mesorectal Extension of Rectal Cancer, Clinical significance of the mesorectal extension of rectal cancer:a Japanese multi-institutional study, Ann Surg, 2011, 253(4):704-10.

Shiomi, A., Ito, M., Saito, N., Hirai, T., Ohue, M., Kubo, Y., Takii, Y., Sudo, T., Kotake, M., Moriya, Y., The indications for a diverting stoma in low anterior resection for rectal cancer:a prospective multicentre study of 222 patients from Japanese cancer centers, Colorectal Dis, 2011, 13(12):1384-9.

瀧井康公、丸山聡、大腸癌の予後因子 R0 切除が行われた Stage IV 大腸癌の予後因子、日本臨床 69 肝増刊 3 大腸癌、2012、197-201.

丸山聡、瀧井康公、「癌個別化医療はどこまで進んだのか」各論大腸癌の個別化医療 化学療法を中心に、外科、2012、73(10): 1057-61.

久保義郎

青野祥司、菅原敬文、酒井伸也、井上 武、高橋忠章、白戸玲臣、久保義郎、田中宏明、腸骨動脈尿管瘻に対してステントグラフトを用いて治療した1例、臨床放射線、2011、56 :219-23.

野崎功雄、羽藤真二、小畠誉也、大田耕司、久保義郎、栗田 啓、腹腔鏡補助下胃癌手術における手縫いBillroth I 法再建、日本内視鏡外科学会雑誌、2011、16(5):631-6.

新海 哲

Takigawa, N., Kiura, K., Hotta, K., Hosokawa, S., Nogami, N., Aoe, K., Gemba, K., Fujiwara, K., Harita, Shi., Takemoto, M., Himei, K., Shinkai, T., Fujiwara, Y., Takata, S., Tabata, M., Kanazawa, S., Tanimoto, M., Okayama Lung Cancer Study Group., A phase I study of S-1 with concurrent thoracic radiotherapy in elderly patients with localized advanced non-small cell lung cancer, Lung Cancer, 2011, 71:60-64.

Nogami, N., Hotta, K., Kuyama, S., Kiura, K., Takigawa, N., Chikamori, K., Shibayama, T., Kishino, D., Hosokawa, S., Tamaoki, A., Harita, S., Tabata, M., Ueoka, H., Shinkai, T., Tanimoto, M., A phase II study of amrubicin and topotecan combination therapy in patients with relapsed or extensive-disease small-cell lung cancer:Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0401, Lung Cancer, 2011, 74:80-94.

Takigawa, N., Kiura, K., Segawa, Y., Hotta, K., Tamaoki, A., Tokuda, Y., Nagata, T., Watanabe, A., Gemba, K., Morioka, T., Horita, N., Takeda, H., Okimoto, N., Takemoto, M., Matsuo, K., Shinkai, T., Tabata, M., Ueoka, H., Kanazawa, S., Tanimoto, M., Benefits and adverse events among elderly patients receiving concurrent chemoradiotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer: analysis of the Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0007, J Thoracic Oncol, 2011, 6:1087-1091.

西山謹司

Otani, K., Kawaguchi, Y., Nishiyama, K., Suzuki, O., Nakamura, S., Inaji, H., Radiation-induced Organizing Pneumonia after Breast-conserving Therapy: Is Corticosteroid Necessary?, Int J Radiat Oncol Biol Phys, 2011, 81(2): S232.

Miyazaki, M., Suzuki, O., Tsujii, K., Ueda, Y., Nishiyama, K., Dosimetric Parameters of Simultaneous Integrated Boost IMRT with Sequential Boost for Head and Neck Cancer, Int J Radiat Oncol Biol Phys, 2011, 81(2): S843.

Nakashima, R., Nishiyama, K., Kawaguchi, Y., Suzuki, O., Nakamura, S., Yoshino, K., Definitive Radiotherapy for Supraglottic Laryngeal Carcinoma: A Single Institutional Experience, Int J Radiat Oncol Biol Phys, 2011, 81(2):S518.

後藤功一

Goto, K., Ichinose, Y., Ohe, Y., Yamamoto, N., Negoro, S., Nishio, K., Itoh, Y., Jiang, H., Duffield, E., McCormack, R., Saijo, N., Mok, T., Fukuoka, M. Epidermal Growth Factor Receptor Mutation Status in Circulating Free DNA in Serum: From IPASS, a Phase III Study of Gefitinib or Carboplatin/Paclitaxel in Non-small Cell Lung

Cancer, J Thorac Oncol, 2011.

米村雅人、秋田賢宏、鈴木真也、後藤功一、田原 信、大津 敦、大江裕一郎、毛利公則、和泉啓司郎、シスプラチン投与時における制吐効果に関する後方視的検討、癌と化学療法 癌と化学療法社、2011、38(7):1155-8.

山口葉子、後藤功一、肺がん治療における分子マーカーと分子標的治療-EGFR 遺伝子変異と EML4-ALK 融合遺伝子の役割、最新医学、2011、66(9):49-57.

高橋利明

Takahashi, T., Nakamura, Y., Tsuya, A., Murakami, H., Endo, M., Yamamoto, N., Pharmacokinetics of aprepitant and dexamethasone after administration of chemotherapeutic agents and effects of plasma substance P concentration on chemotherapy-induced nausea and vomiting in Japanese cancer patients, Cancer Chemother Pharmacol, 2011, 68(3):653-659.

Tamiya, A., Naito, T., Ono, A., Ayabe, E., Tsuya, A., Nakamura, Y., Kaira, K., Murakami, H., Takahashi, T., Endo, M., Yamamoto, N., Evaluation of the efficacy and safety of chemotherapy for patients with wet stage IIIB/IV non-small-cell lung cancer aged 80 years old or more, Lung Cancer, 2011, 71(2):173-177.

Kenmotsu, H., Naito, T., Kimura, M., Ono, A., Shukuya, T., Nakamura, Y., Tsuya, A., Kaira, K., Murakami, H., Takahashi, T., Endo, M., Yamamoto, N., The risk of cytotoxic chemotherapy-related exacerbation of interstitial lung disease with lung cancer, J Thorac Oncol, 2011, 6(7):1242-6.

Shukuya, T., Takahashi, T., Naito, T., Kaira, R., Ono, A., Nakamura, Y., Tsuya, A., Kenmotsu, H., Murakami, H., Harada, H., Mitsuya, K., Endo, M., Nakasu, Y., Takahashi, K., Yamamoto, N., Continuous EGFR-TKI administration following radiotherapy for non-small cell lung cancer patients with isolated CNS failure, Lung Cancer, 2011, 74(3):457-61.

Shukuya, T., Takahashi, T., Kaira, R., Ono, A., Nakamura, Y., Tsuya, A., Kenmotsu, H., Naito, T., Kaira, K., Murakami, H., Endo, M., Takahashi, K., Yamamoto, N., Efficacy of gefitinib for non-adenocarcinoma non-small-cell lung cancer patients harboring epidermal growth factor receptor mutations:a pooled analysis of published reports, Cancer Sci, 2011, 102(5):1032-7.

室 圭

Kato, K., Tahara, M., Hironaka, S., Muro, K., Takiuchi, H., Hamamoto, Y., Imamoto, H., Amano, N., Seriu, T., A phase II study of paclitaxel by weekly 1-h infusion for advanced or recurrent esophageal cancer in patients who had previously received platinum-based chemotherapy, Cancer Chemother Pharmacol, 2011, 67(6):1265-72.

宇良 敬、室 圭、外来化学療法における有害事象とその対策、外科治療4 2011、104(4):369-374,

藤坂保仁

Fujisaka, Y., Sugiyama, T., Saito, H., Nagase, S., Kudoh, S., Endo, M., Sakai, H., Ohashi, Y., Saijo, N., Randomised, phase III trial of epoetin-beta to treat chemotherapy-induced anaemia according to the EU regulation, Br J Cancer, 2011, 105(9):1267-72.

藤坂保仁、中川和彦、外来化学療法時の検査の意義、外科治療、2011、104(4):336-41.

近藤俊輔

Iwasa, S., Ikeda, M., Okusaka, T., Ueno, H., Morizane, C., Nakachi, K., Mitsunaga, S., Kondo, S., Hagihara, A., Shimizu, S., Satake, M., Arai, Y., Transcatheter arterial infusion chemotherapy with a fine-powder formulation of cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma refractory to transcatheter arterial chemoembolization, Jpn J Clin Oncol, 2011, 41(6):770-5.

近藤俊輔、血管新生阻害剤、医学の歩み、2011、236(7):730-5.

近藤俊輔、Met 阻害剤、腫瘍内科、2011、7(5):410-5.

武田晃司

Okamoto, I., Yoshioka, H., Takeda, K., Satouchi, M., Yamamoto, N., Seto, T., Kasahara, K., Miyazaki, M., Kitamura, R., Ohyama, A., Hokoda, N., Nakayama, H., Yoshihara, E., Nakagawa, K., Phase I Clinical Study of the Angiogenesis Inhibitor TSU-68 Combined with Carboplatin and Paclitaxel in Chemotherapy-Naive Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer, J Thorac Oncol, 2011[Epub ahead of print].

Ichinose, Y., Seto, T., Sasaki, T., Yamanaka, T., Okamoto, I., Takeda, K., Tanaka, M., Katakami, N., Sawa, T., Kudoh, S., Saka, H., Nishimura, Y., Nakagawa, K., Fukuoka, M., S-1 Plus Cisplatin with Concurrent Radiotherapy for Locally Advanced Non-small Cell Lung Cancer:A Multi-Institutional Phase II Trial (West Japan Thoracic Oncology Group 3706), J Thorac Oncol, 2011[Epub ahead of print].

Hosomi, Y., Shibuya, M., Niho, S., Ichinose, Y., Kiura, K., Sakai, H., Takeda, K., Kudo, S., Eguchi, K., Matsui, K., Masuda, N., Ando, M., Watanabe, K., Phase II study of topotecan with cisplatin in Japanese patients with small cell lung cancer, Anticancer Res, 2011, 31(10):3449-56.

Daga, H., Hida, T., Ishikawa, S., Shimizu, J., Tokunaga, S., Horio, Y., Kobayashi, K., Takeda, K., The safety and tolerability of intravenous ASA404 when administered in combination with docetaxel (60 or 75 mg/m<sup>2</sup>) in Japanese patients with advanced or recurrent solid tumors, *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(9):1067-73.

Kobayashi, M., Matsui, K., Katakami, N., Takeda, K., Moriyama, A., Iwamoto, Y., Takada, M., Yoshioka, H., Sueoka-Aragane, N., Nakagawa, K., West Japan Oncology Group. Phase II study of gefitinib as a first-line therapy in elderly patients with pulmonary adenocarcinoma: West Japan Thoracic Oncology Group Study 0402, *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(8):948-52.

Saito, H., Nakagawa, K., Takeda, K., Iwamoto, Y., Ando, M., Maeda, M., Katakami, N., Nakano, T., Kurata, T., Fukuoka, M., Randomized Phase II Study of Carboplatin-Paclitaxel or Gemcitabine-Vinorelbine in Patients With Advanced Nonsmall Cell Lung Cancer and a Performance Status of 2: West Japan Thoracic Oncology Group 0004, *Am J Clin Oncol*, 2011[Epub ahead of print].

江崎泰斗

Hayashi, T., Ikesue, H., Esaki, T., Fukazawa, M., Abe, M., Ohno, S., Tomizawa, T., Oishi, R., Implementation of institutional antiemetic guidelines for low emetic risk chemotherapy with docetaxel: a clinical and cost evaluation, *Support Care Cancer*, 2011 [Epub ahead of print].

江崎泰斗、小田尚伸、牧山明資、在田修二、外来抗癌薬治療の実際 - 大腸癌：新規抗癌薬と集学的治療、外来癌化学療法、2011. 26 - 34.

伊藤一人

Miyamoto, S., Ito, K., Miyakubo, M., Suzuki, R., Yamamoto, T., Suzuki, K., Suzuki, K., Yamanaka, H., Impact of pretreatment factors biopsy Gleason grade volume indices and post-treatment nadir PSA on overall survival in patients with metastatic prostate cancer treated with step-up hormonal therapy, *Prostate Cancer Prostatic Dis*, 2011[Epub ahead of print].

Nomura M., Ito, K., Miyakubo, M., Sekine, Y., Tamura, Y., Shimizu, N., Aoki, S., Suzuki, K., Development and external validation of a nomogram for predicting cancer probability at initial prostate biopsy using the life expectancy-adjusted and prostate volume-adjusted biopsy scheme, *Prostate Cancer and Prostatic Diseases*, 2011 (in press) .

Okamoto, M., Ishikawa, H., Ebara, T., Kato, H., Tamaki, T., Akimoto, T., Ito, K., Miyakubo, M., Yamamoto, T., Suzuki, K., Takahashi, T., Nakano, T., Rectal bleeding after high-dose-rate brachytherapy combined with hypofractionated external-beam radiotherapy for localized prostate cancer: The relationship between dose-volume histogram parameters and the occurrence rate, *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 2011(in press).

## (学会発表)

小西 大

Konishi, M., Nakachi, K., Feasibility Study of S-1 in Resected Biliary Tract Cancer, Asia Pacific HPBA Congress, Melbourne, 2011, 27-30.

木下 平

Kinoshita, T., (Video) LN dissection around the splenic artery and the splenic hilus in proximal gastric cancer, 9th International Gastric Cancer Congress, Seoul/Korea, 2011, 4.20-23(22).

Kinoshita, T., (Free Paper) Improved Survival Rate of Scirrhus Gastric Cancer by S-1, 9th International Gastric Cancer Congress, Seoul/Korea, 2011, 4.20-23(22).

Nashimoto, A., Sasako, M., Kinoshita, T., Furukawa, H., Yamaguchi, T., Fujii, M., Nakajima, T., Ohashi, Y., G.ACTS-GC, (Free Paper) Pre-planned subgroup analysis given S-1 adjuvant chemotherapy for resected gastric cancer from ACTS-GC, 9th International Gastric Cancer Congress, Seoul/Korea, 2011, 4.20-23(21).

Sasako, M., Kinoshita, T., Furukawa, H., Yamaguchi, T., Nashimoto, A., Fujii, M., Nakajima, T., Ohashi, Y., (Consensus Conference) Five-year results of S-1 adjuvant chemotherapy study (ACTS-GC), 9th International Gastric Cancer Congress, Seoul/Korea, 2011, 4.20-23(22).

Gotohda, N., Konishi, M., Takahashi, S., Kinoshita, T., Kato, Y., Kinoshita, T., The Indication and Surgical Outcome of Reduction Hepatectomy for Multiple Advanced Hepatocellular Carcinoma, Asia Pacific HPBA Congress 2011, Melbourne/Australia, 2011, 9.27-30(29).

Sugimoto, M., Gotohda, N., Kato, Y., Kinoshita, T., Takahashi, S., Konishi, M., Kinoshita, T., Efficacy of palliative gastrojejunostomy for duodenal obstruction caused by pancreatic head carcinoma, Asia Pacific HPBA Congress 2011, Melbourne/Australia, 2011, 9.27-30(28).

Kaito, A., Gotohda, N., Kato, Y., Kinoshita, T., Takahashi, S., Konishi M., Kinoshita, T., Short-term results

after Total Pancreatectomy compared with Pancreaticoduodenectomy, IASGO2011(第 21 回国際外科消化器科腫瘍科学会総会), Tokyo/Japan, 2011, 11.9-12(10).

Takahashi, S., Konishi, M., Kinoshita, T., Gotohda, N., Kato, Y., Kinoshita, T., Prognostic value of resection margin status in pancreatic cancer, IASGO2011(第 21 回国際外科消化器科腫瘍科学会総会), Tokyo/Japan, 2011, 11.9-12(10).

Nakagohri, T., Kinoshita, T., Konishi, M., Takahashi, S., Gotohda, N., Yazawa, N., Kato, K., Furukawa, D., Murakami, K., Ozawa, S., Sadahiro, Sotaro., Yasuda, Seiei., Ogoshi, K., Surgical outcome of invasive intraductal papillary mucinous neoplasms: Comparison with pancreatic ductal adenocarcinoma, IASGO2011(第 21 回国際外科消化器科腫瘍科学会総会), Tokyo/Japan, 2011, 11.9-12(11).

Kinoshita, T., Adjuvant Therapy for Resectable Pancreatic Cancer, IASGO2011(第 21 回国際外科消化器科腫瘍科学会総会), Tokyo/Japan, 2011, 11.9-12(12).

海藤章郎、高橋進一郎、小林 信、加藤祐一郎、木下敬弘、後藤田直人、小西 大、木下 平、(ワークショップ) 肝細胞癌切除術における術後新鮮凍結血漿 (FFP) の予防的投与の必要性に関する検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

小林 信、小西 大、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、高橋進一郎、木下 平、(サージカルフォーラム)胆管乳頭腺癌の臨床病理学的検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

高橋進一郎、木下 平、小西 大、後藤田直人、加藤祐一郎、斉藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、木下敬弘、(サージカルフォーラム)切除不能同時性大腸癌肝転移に対する化学療法奏効後切除の成績と至適治療順序の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

中郡聡夫、加藤賢一郎、矢澤直樹、郡司 久、古川大輔、小澤壮治、貞廣荘太郎、安田聖栄、生越喬二、木下 平、高橋進一郎、(サージカルフォーラム)IPMN 由来浸潤癌の外科治療成績、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

杉本元一、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ポスターセッション)根治切除不能膵頭部癌における消化管閉塞に対する消化管バイパス術の有効性の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

後藤田直人、木下 平、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、加藤祐一郎、(ポスターセッション)巨大進行肝細胞癌に対する減量切除の治療成績の検討と適応について、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

加藤祐一郎、小西 大、高橋進一郎、後藤田直人、木下 平、(ポスターセッション)IPMN の手術適応について、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

門田一晃、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西 大、木下 平、(ポスターセッション)残膵癌切除症例における K-RAS、TP53 遺伝子変異の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催)。

小林 信、高橋進一郎、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬之(冊子通りに記載)、小西 大、木下 平、(ミシンポジウム)膵頭十二指腸切除術後膵液瘻の危険因子と対策<感染管理の重要性>、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(8)。

木下 平、小西 大、高橋進一郎、後藤田直人、加藤祐一郎、北田浩二、(ミシンポジウム)門脈枝塞栓後に広範な肝壊死をきたした肝内胆管癌肝門浸潤の一例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(9)。

戸田孝祐、小西 大、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、高橋進一郎、木下 平、(ミシンポジウム)膵頭十二指腸切除術における術前減黄の功罪-長期例と短期例との比較検討-、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10)。

杉本元一、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ミシンポジウム)膵体尾部切除術後膵液瘻における危険因子の検討、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10)。

高橋進一郎、木下 平、小西 大、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、池田公史、仲地耕平、(ミシンポジウム)局所進行膵がん化学療法後切除例の検討、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10)。

後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、加藤祐一郎、木下 平、(ポスター)当院における肝内胆管癌の手術治療成績、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(8)。

海藤章郎、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西 大、木下 平、(ポスター)CT volumetry および術前 ICGR15 を用いた肝切除術術前肝機能評価の安全性、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10)。

日置勝義、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ポスター)浸潤性膵管癌肝転移切除症例の検討、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10)。

本多正幸、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西 大、木下 平、(ポスター)血管筋脂肪腫と鑑別を要した肝細胞癌の 1 切除例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(8)。

北田浩二、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)限局性肝内胆管狭窄像を呈した IgG4 関連硬化性胆管炎の一切除例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(8).

門田一晃、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)膵腺扁平上皮癌 5 例の臨床病理組織学的検討、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(9).

杉本元一、後藤田直人、小嶋基寛、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、落合淳志、木下 平、(ホスター)異所性脾由来膵尾部嚢胞性病変の 2 例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、2011、6.8-10(9).

檜垣栄治、後藤田直人、大幸宏幸、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)食道癌の異時性肝転移の 1 切除例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10).

佐原八束、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)胃癌幽門側胃切除術後経過観察中に発見された主膵管内伸展を伴う膵腺房細胞癌の一例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10).

細川勇一、加藤祐一郎、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、木下 平、(ホスター)主膵管型 IPMC 術後、5 年以上経て発生した異時性多発 IPMC の 2 切除例、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10).

小西 大、木下 平、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、(パネディスカッション)T2 胆嚢癌に対する治療方針、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10).

加藤祐一郎、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、木下 平、(ミニポジウム)IPMN の手術適応とその術式決定について、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(8).

中郡聡夫、加藤賢一郎、郡司久、矢澤直樹、古川大輔、小澤壮治、安田聖栄、貞廣荘太郎、生越喬二、飛田浩輔、小西大、高橋進一郎、後藤田直人、木下 平、(パネディスカッション)IPMN 由来浸潤癌切除例の生存率と手術適応、第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、東京、2011、2011、6.8-10(9).

木下 平、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、(シボジウム)高度進行胃癌に対する術前化学療法の有効性について—スキルス胃癌での検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

杉本元一、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(パネディスカッション)80 歳以上の高齢者に対する膵頭十二指腸切除周術期管理についての検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

佐原八束、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(要望演題)初回疾患別残胃癌手術症例の比較検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(13).

後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、加藤祐一郎、木下 平、(要望演題)肝内胆管癌切除例における予後因子と治療方針の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

加藤祐一郎、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、木下 平、(要望演題)当科における進行胆嚢癌の治療戦略、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(15).

檜垣栄治、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(要望演題)肝切除後におけるドレーン留意の必要性についての検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(15).

小西 大、木下 平、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、(要望ビデオ)乳頭部腫瘍に対する経十二指腸的乳頭切除術、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

本多正幸、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(企画関連口演)狭窄症状を有した治癒切除不能胃癌に対する姑息的胃切除術の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(13).

細川勇一、木下敬弘、小西 大、高橋進一郎、後藤田直人、加藤祐一郎、大幸宏幸、西村光世、木下 平、(企画関連口演)Siewert 分類に基づく食道胃接合部癌の特徴と予後因子からみた治療戦略、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

高橋進一郎、木下 平、小西 大、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、池田公史、(企画関連口演)切除可能膵癌と局所進行膵癌の治療成績から検討する浸潤性膵管癌の治療戦略、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

戸田孝祐、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西 大、斎藤典男、大津敦、木下 平、(企画関連口演)切除可能大腸癌肝転移に対する周術期化学療法の適応、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

海藤章郎、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ニオラル)当院における膵全摘術 10 例の短期治療成績の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(15).

木下 平、スキルス胃癌に対する 5 年以降の経過観察の重要性について、第 49 回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011、10.27-29(27).

杉本元一、後藤田直人、小嶋基寛、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、落合淳志、木下 平、(ホスター)悪性黒色腫膵転移の一切除例、JDDW2011/第 9 回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(22).

後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、加藤祐一郎、木下 平、(ホスター)ハーモニック FOCUS を用いた肝切除法の有用性の検討、JDDW2011/第 9 回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(23).

門田一晃、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西 大、木下 平、(ホスター)局所進行膵体尾部癌に対

する腹腔動脈合併脾体尾部切除術の検討、JDDW2011/第9回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(23).

戸田孝祐、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)肝原発筋腫型 Angiomyolipoma 切除例における臨床病理学的検討、JDDW2011/第9回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(23).

中郡聡夫、飛田浩輔、木下 平、(ワグショップ) IPMN および他の嚢胞性脾腫瘍に対する外科治療方針、JDDW2011/第9回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(23).

木下 平、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、(要望演題)脾液瘻軽減のための術式およびドレーン管理の工夫、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4).

桜本信一、笹子三津留、山口俊晴、木下 平、藤井雅志、梨本 篤、古河 洋、中島聰總、大橋靖雄、(特別企画シボジウム1)ACTS-GC 試験の5年時のフォローアップデータ、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4) : 41.

杉本元一、藤井誠志、桑田健、加藤祐一郎、後藤田直人、高橋進一郎、小西 大、落合淳志、木下 平、(口演)胃腺扁平上皮癌6例の検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(5).

細川勇一、木下 平、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、西村光世、大幸宏之、(ワグショップ) Siewert 分類に基づく食道胃接合部癌の特徴と予後からみた治療戦略、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(5).

酒井健司、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(口演)胃癌ESD治療後追加外科手術症例の癌遺残またはリンパ節転移例の臨床病理学的検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4).

藤田武郎、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(要望演題)予後因子から見た脾脾合併切除を伴う胃全摘症例の検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4).

檜垣栄治、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)当院における胃癌腹水洗浄細胞診のclass分類別検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(5).

後藤田直人、小西 大、高橋進一郎、木下敬弘、加藤祐一郎、木下 平、(口演)T4b胃癌に対する切除成績と予後因子に関する検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(5).

本多正幸、後藤田直人、加藤祐一郎、木下敬弘、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(パネディスカッション)幽門狭窄をきたした根治切除不能進行胃癌に対する緩和的外科治療の検討、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4) : 57.

齋浦明夫

Ban, D., Shimada, K., Konishi, M., Uesaka, K., Saiura, A., Hashimoto, M., Staple and Non-Staple Closure of Pancreatic Remnant After Distal Pancreatectomy: A Multicenter Retrospective Analysis of 388 Patients, Digestive Disease Week 2011, Chicago/USA, 2011, 5.7-10(9).

島田和明、伴 大輔、小西 大、上坂克彦、齋浦明夫、橋本雅司、佐野 力、(ミニシボジウム)尾側脾切除における脾液瘻発生危険因子の解析：多施設共同後ろ向き研究、第23回日本肝胆脾外科学会・学術集会、東京、2011、6.8-10(10).

木下敬弘

Shibasaki, H., Kinoshita, T., (木下敬弘), Ogata, A., Yoshimura, K., Wakabayashi, Y., Fukuda, H., Kaneko, T., Onai, Y., Uchi, R., Kohama, S., Fukukawa, K., Miyazaki, M., (ホスター) Comparison of the alterations of serum monocyte chemoattractant protein-1(MCP-1) and interleukin 6 (IL-6) levels after total laparoscopic and conventional open gastrectomy for gastric cancer, 9th International Gastric Cancer Congress (IGCC 2011), Seoul/Korea, 2011, 4.20-23(21).

海藤章郎、木下敬弘、加藤祐一郎、後藤田直人、高橋進一郎、小西 大、木下 平、(ホスター)食道胃接合部腺癌 (Siewert typeII) に対する腹腔鏡下噴門側胃切除術3例の施行経験、JDDW2011/第9回日本消化器外科学会大会、福岡、2011、10.20-23(22).

木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、高橋進一郎、小西 大、木下 平、岡住慎一、加藤良二、(ビデオフォーラム)腹腔鏡下胃切除における鏡視下器械吻合を安全に行うための工夫、第111回日本外科学会定期学術集会、2011、5.26-28(震災のため誌上開催).

木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、高橋進一郎、小西 大、岡住慎一、加藤良二、木下 平、(ワグショップ)当院における術式別胃切除後再建法の検討、第66回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

木下敬弘、(イブニングセミナー3-1)完全腹腔鏡下胃切除術～エキスパートに学ぶコツとピットフォール～、第66回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

木下敬弘、後藤田直人、加藤祐一郎、高橋進一郎、小西 大、木下 平、岡住慎一、加藤良二、(要望演題)体上部早期胃癌に対する完全腹腔鏡下幽門側胃切除の工夫、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4).

芝崎英仁、木下敬弘、吉村光太郎、若林康夫、福田啓之、金子高明、尾内康英、内玲往那、尾形章、(要望演題)当院での腹腔鏡下噴門側胃切除術における再建方法—腹腔鏡下手縫い pursestringsuture 法—、第83回日本胃癌学会総会、青森/三沢、2011、3.3-5(4).

大城崇司、木下敬弘、堀部大輔、吉田豊、瓜田 祐、大城充、長島誠、川村功、岡住慎一、加藤良二、(ミニオラル)当院における開腹減量手術について、第66回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011、7.13-15(14).

永井宏和

Nagai, H., Watanabe, T., Kihara, R., Uike, N., Okamura, S., Yano, T., Kawano, F., Hanada, S., Sunami, K., Inoue, N., Sawamura, M., Horibe, K., Hotta, T., Poorer prognosis of T/NK cell lymphoma than diffuse large B cell lymphoma in IPI low risk group contributes the unfavorable clinical outcome of T/NK cell lymphoma in clinical practice, 11<sup>th</sup> international conference on malignant lymphoma, Lugano/Switzerland, 2011, 7.15-18.

Hagiwara, K., Murate, T., Miyata, Y., Hotta, T., Nagai, H., The mechanisms of tumor suppression by PROX1, 第70回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011, 10.3-5.

Nagai, H., Ogura, M., Tsukasaki, K., Suzuki, T., Uchida, T., Oyama, T., Taguchi, J., Maruyama, D., Hotta, T., Tobinai, K., Phase I Study of Forodesine in Patients with Relapsed or Refractory T/NK-Cell Malignancies, 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 2011, 10.14-16.

Hou, T., Taniwaki, M., Iida, S., Okamoto, S., Nagai, H., Tamura, K., Tsudo, M., Abe, M., Takatoku, M., Phase III study of Lenalidomide plus Dexamethasone in Japanese Patients with R/R Myeloma, 第73回日本血液学会学術集, 名古屋, 2011, 10.14-16.

Chou, T., Taniwaki, M., Iida, S., Okamoto, S., Nagai, H., Tamura, K., Tsudo, M., Abe, M., Takatoku, M., Phase III study of Lenalidomide plus Dexamethasone in Japanese Patients with R/R Myeloma, 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 2011, 10.14-16.

Miyata, Y., Yamamoto, H., Kojima, Y., Imoto, N., Kato, C., Yokozawa, T., Ohashi, H., Hotta, T., Nagai, H., Clinical characteristics of adult AML refractory to the first induction therapy in our institute, 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 2011, 10.14-16.

Yamamoto, H., Miyata, Y., Kojima, Y., Imoto, N., Kato, C., Yokozawa, T., Ohashi, H., Hotta, T., Nagai, H., A case of ALL developed pulmonary alveolar proteinosis during treatment with dasatinib, 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 2011, 10.14-16.

Kinoshita, T., Sugiura, I., Taji, H., Sawa, M., Kitamura, K., Nagai, H., Iida, S., Kosugi, H., Miyamura, K., Mihara, H., Sao, H., Kasai, M., Atsuta, Y., Suzuki, R., Shimizu, K., Morishita, Y., Phase II trial of C-VAD therapy followed by ASCT for newly diagnosed patients with MM: C-SHOT04011, 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 2011, 10.14-16.

山本秀行、井本直人、小島勇貴、宮田泰彦、横澤敏也、加藤千明、大橋春彦、堀田知光、永井宏和、髄膜原発 AIDS 関連バーキットリンパ腫の一例、第51回日本リンパ網内系学会総会、福岡、2011、7.1-2.

萩原和美、村手隆、宮田泰彦、堀田知光、永井宏和、癌抑制遺伝子としての PROX の機能解析、第73回日本血液学会学術集会、名古屋、2011、10.14-16.

小島勇貴、渡辺智之、木原里香、鵜池直邦、岡村精一、矢野尊啓、日高道弘、花田修一、角南一貴、井上信正、澤村守夫、堀部敬三、堀田知光、永井宏和、成熟 T/NK 細胞性リンパ腫の後方視的予後解析、第73回日本血液学会学術集会、名古屋、2011、10.14-16.

谷水正人

谷水正人、がんの地域連携パス 死の臨床、2011、34(1) :67.

下村裕見子、池田俊也、武藤正樹、谷水正人、がん診療連携拠点病院等におけるがん地域連携クリニカルパス稼働調査と連携体制の課題、日本クリニカルパス学会誌、2011、13(2):98-104.

下村裕見子、池田俊也、武藤正樹、谷水正人、地域連携クリティカルパスの現状と今後の課題 地域連携クリティカルパス運用への地域連携室の関わり 現状と今後の課題、日本医療マネジメント学会雑誌、2011、12 Suppl :124.

谷水正人、地域連携クリティカルパスの現状と今後の課題 [特別発言]がん地域連携クリティカルパスの今後の方向性、日本医療マネジメント学会雑誌、2011、12 Suppl:123.

浅木彰則、灘野成人、梶原猛史、池田宜央、谷水正人、下大静脈浸潤を伴った肝細胞癌に対する放射線治療の検討、肝臓 52、2011、Suppl 1 :331.

薬師神芳洋、森田純子、矢野琢也、松久哲章、原雅道、安川正貴、谷水正人、新海哲、愛媛県がん診療連携拠点病院における「がんの集学的治療に関する分科会」の活動、日本内科学会雑誌、2011、100 Suppl. :240.

森谷亘皓

Moriya, Y., Lateral lymph node dissection in rectal cancer treatment:myths and eality, Fifth International Conference - Russian School of Colorectal Surgery - Moscow(Russia), 2011.23-24.

Moriya, Y., 1. Nerve-sparing surgery with lateral node dissection for low rectal cancer (Lecture) 2. Intersphincteric resection for very low rectal cancer(Lecture) 3. Surgical treatment for local recurrence (Lecture) 4. Intersphincteric resection:Surgical Treatment for Local Recurrence (Videos), The X Congress of the Brazilian Society of Surgical Oncology, Brazil (Rio de Janeiro), 2011.13-14.

Moriya, Y., Total pelvic exenteration with distal sacrectomy for fixed recurrent rectal cancer, 21<sup>st</sup> World



Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 東京, 2011, 11. 9-12.

稲田 涼、藤田 伸、赤須孝之、山本聖一郎、高和 正、森谷亘皓、P2-19 大腸癌 Stage IV, 根治度 B 症例の転移臓器別予後、第 75 回大腸癌研究会、東京、2011. 7. 8.

稲田 涼、赤須孝之、藤田 伸、山本聖一郎、森谷亘皓、PS-062-1 有症状および無症状（検診）で発見された大腸癌患者の治療成績の違い、第 111 回日本外科学会、2011. 5. 26-28（震災のため誌上開催）。

赤須孝之、山本聖一郎、高和 正、本橋英樹、稲田 涼、佐藤一仁、藤田 伸、森谷亘皓、RV10-1 超低位直腸癌に対する ISR の適切な術式、第 66 回日本消化器外科学会、名古屋、2011. 7. 13-15.

山本聖一郎、藤田 伸、赤須孝之、稲田 涼、森谷亘皓、P101-7 大腸癌に対する腹腔鏡手術で、創感染による退院延期は必要か？、第 66 回日本消化器外科学会、名古屋、2011. 7. 13-15.

岸野貴賢、山本聖一郎、藤田 伸、赤須孝之、稲田 涼、森谷亘皓、P60-5 同時性多発大腸癌に対して一期的に腹腔鏡下に 2ヶ所の腸切除術を施行した症例の検討、第 66 回日本消化器外科学会、名古屋、2011. 7. 13-15.

齋藤典男

Kojima, M., Nakajima, K., Isshii, G., Saito, N., Ochiai, A., Peritoneal elastic laminal invasion of colorectal cancer: The diagnostic utility and clinicopathological relationship, 100th United States & Canadian Academy of Pathology, USA/San Antonio, 2011. 2. 26-3. 4.

Ito, M., Saito, N., Nishizawa, Y., Sugito, M., Nobayashi, A., Comparison of postoperative functions between laparoscopic ISR and open ISR in very low rectal, 30th SAGES Scientific Session & Postgraduate Courses, USA/San Antonio, 2011. 3. 30-4. 2.

Saito, N., Nishizawa, Y., Sutigo, M., Ito, M., Kobayashi, A., Kohyama, A., Nishigori, H., Oogara, T., Sato, Y., Murata, S., Yokota, M., Local therapy for high-risk T 1 rectal cancer, 6th ESCP European Society of Coloproctology, Copenhagen, 2011. 9. 21-24.

Nishizawa, Y., Fujii, S., Saito, N., Ito, M., Nakajima, K., Sugito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., Differences in tissue degeneration between preoperative chemotherapy and preoperative chemoradiotherapy for colorectal cancer, 6th ESCP European Society of Coloproctology, Copenhagen, 2011. 9. 21-24.

Nishigori, H., Ito, M., Nishizawa, Y., Kobayashi, A., Sugito, M., Saito, N., The utility of an anal fdral drain to prevent postoperative anastomosis leakage, 6th ESCP European Society of Coloproctology, Copenhagen, 2011. 9. 21-24.

Oogara, T., Saito, N., Sugito, M., Ito, M., Kobayashi, A., Nishizawa, Y., long-term results of anal function after intersphincteric resection for low rectal cancer, 6th ESCP European Society of Coloproctology, Copenhagen, 2011. 9. 21-24.

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、中嶋健太郎、甲田貴丸、神山篤史、錦織英知、大柄貴寛、佐藤雄、邑田 悟、横田 満、超低位直腸癌における治療方針の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):228（震災のため誌上開催）。

伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、さらなる低侵襲性と機能温存を目指した腹腔鏡下 ISR、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):256（震災のため誌上開催）。

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、基調講演: 究極的肛門温存手術である Intersphincteric resection の現状、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):290（震災のため誌上開催）。

西澤雄介、伊藤雅昭、小林昭広、杉藤正典、甲田貴丸、中嶋健太郎、齋藤典男、直腸・肛門管癌に対する ISR の治療成績、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):291（震災のため誌上開催）。

西澤祐吏、中村達雄、本多通孝、齋藤典男、伊藤雅昭、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、直腸癌 I S R 術後における肛門括約筋再生に関する研究、第 111 回日本外科学会定期学術集会誌、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):292（震災のため誌上開催）。

大柄貴寛、齋藤典男、伊藤雅昭、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）術後の肛門機能評価（術後 5 年以上での肛門機能アンケート調査）、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):430（震災のため誌上開催）。

神山篤史、伊藤雅昭、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、田中俊之、悦永 徹、中嶋健太郎、甲田貴丸、錦織英知、齋藤典男、3T MRI を用いた直腸癌に対する深達度評価の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):543（震災のため誌上開催）。

錦織英知、伊藤雅昭、中嶋健太郎、西澤祐吏、大柄貴寛、佐藤 雄、邑田 悟、横田 満、神山篤史、甲田貴丸、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、直腸癌手術における経肛門式減圧ドレーンの臨床的意義を検討するための Pilot study、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011、5; 第 112 巻臨時増刊号(1. 2):849（震災のため誌上開催）。齋藤典男、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、杉藤正典、下部直腸進行癌における究極的肛門温存手術—その実際、予後と機

能は？ー[専門医に求められる手術手技-達人に学ぶ-]、第 66 回日本消化器外科学会総会、2011、7 : 192.

神山篤史、伊藤雅昭、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、錦織英知、辻野幸夫、佐藤 敦、齋藤典男、大腸がんにおける血中循環がん細胞検出技術の臨床的有用性の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 13-15.

伊藤雅昭、齋藤典男、西澤雄介、杉藤正典、小林昭広、中嶋健太郎、Needlescopic device を用いた腹腔鏡 ISR、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

小林昭広、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、西澤雄介、中嶋健太郎、甲田貴丸、錦織英知、神山篤史、邑田 悟、側方郭清を伴う直腸癌手術の長期成績、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

佐藤 雄、伊藤雅昭、井尻敬、甲田貴丸、中嶋健太郎、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、横田秀夫、齋藤典男、コンピュータグラフィック技術を老いよした三次元肛門管イメージングの開発、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15 : 422.

戸田孝祐、高橋進一郎、加藤祐一郎、後藤田直人、木下敬弘、小西大、齋藤典男、大津 敦、木下 平、切除可能大腸癌肝転移に対する周術期化学療法への適応、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15 : 506.

中嶋健太郎、伊藤雅昭、錦織英知、神山篤史、甲田貴丸、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、直腸癌手術における合併症-縫合不全、狭窄、粘膜脱の治療方法と防止策、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15 : 550.

錦織英知、伊藤雅昭、西澤祐史、神山篤史、甲田貴丸、中嶋健太郎、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、治癒切除不能 Stage4 大腸癌に対する腹腔鏡下姑息的原発巣切除の有用性、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15 : 819.

西澤祐史、山崎直也、並川健二郎、齋藤典男、甲田貴丸、伊藤雅昭、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、直腸肛門部悪性黒色腫の手術治療に関する検討、第 49 回日本癌治療学会、名古屋、2011. 10. 27-29.

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、酒井康之、駒井好信、神山篤史、錦織英知、大柄貴寛、佐藤雄、邑田 悟、横田 満、下部尿路系浸潤を伴う局所進行直腸癌に対する機能温存再建手術について、第 49 回日本癌治療学会、名古屋、2011. 10. 27-29.

大柄貴寛、齋藤典男、西澤雄介、小林昭広、伊藤雅昭、杉藤正典、下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除 (ISR) 術後 5 年以上での肛門評価、JDDW2011、第 19 回消化器関連学会週間、福岡、2011. 10. 20-23. 小林昭広、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、西澤雄介、神山篤史、錦織英知、佐藤雄、邑田 悟、大柄貴寛、横田 満、合志健一、塚田祐一郎、河野眞吾、山崎信義、低位直腸癌の肛門括約筋温存手術における手術前化学放射線療法と手術単独群の長期成績、第 73 回日本臨床外科学会総会、新宿、2011. 11. 17-19.

伊藤雅昭、齋藤典男、西澤雄介、杉藤正典、小林昭広、Needis-Clip Surgery による窮極の内視鏡下肛門温存手術、第 73 回日本臨床外科学会総会、新宿、2011. 11. 17-19.

錦織英知、小林昭広、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、西澤雄介、神山篤史、大柄貴寛、佐藤 雄、邑田 悟、横田 満、肛門括約筋温存手術の成績と今後の方向性、第 73 回日本臨床外科学会総会、新宿、2011. 11. 17-19.

邑田 悟、小林昭広、西澤雄介、伊藤雅昭、杉藤正典、齋藤典男、当科における GIST に対する戦略、第 73 回日本臨床外科学会総会、新宿、2011. 11. 17-19.

小林昭広、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、西澤雄介、直腸癌術後縫合不全ドレナージ中患者の退院と通院、第 73 回日本臨床外科学会総会、2011. 11. 17-19.

邑田 悟、伊藤雅昭、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、FDG-PET/CT を用いた直腸癌術前のリンパ節転移診断の検討、第 73 回日本臨床外科学会総会、2011. 11. 17-19.

齋藤典男、伊藤雅昭、西澤祐史、藤井誠志、小嶋基寛、落合淳志、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、神山篤史、錦織英知、大柄寛、佐藤 雄、邑田 悟、横田 満、超低位進行直腸癌に対する術前補助療法について、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

小林昭広、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、西澤雄介、錦織英知、神山篤史、大柄貴寛、佐藤 雄、横田 満、邑田 悟、河野眞吾、合志健一、山崎信義、直腸癌局所再発の治療的切除と今後の展望、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、ISR の治療成績とその問題点、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

佐藤 雄、伊藤雅昭、角田洋之、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、神山篤史、錦織英知、大柄貴寛、邑田 悟、横田 満、齋藤典男、大腸癌術前診断における 18F-FLT PET/CT と 18F-FDG PET/CT の比較、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

神山篤史、小嶋義寛、横田 満、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、錦織英知、大柄貴寛、佐藤雄、邑田 悟、落合淳志、齋藤典男、Stage1 大腸癌における漿膜弾性板浸潤の診断の有用性の検討、第 49 回日本癌治療学会、名古屋、2011. 10. 27-29.

赤須孝之

Akasu T, Yamamoto S, Takawa M, Sato K, Fujita S, Motohashi H. Short- and long-term outcomes of laparoscopic complete mesocolic excision for sigmoid colon and rectosigmoid cancers. Society of Surgical Oncology 64th Annual Cancer Symposium, San Antonio, USA, March 4, 2011, poster.

Sato K, Akasu T, Miyake M, Motohashi H, Takawa M, Arai Y, Iinuma G. Preliminary evaluation of accuracy of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in preoperative nodal staging of rectal cancer. Society of Surgical Oncology 64th Annual Cancer Symposium, San Antonio, USA, March 4, 2011, poster.

Akasu T. Treatment of Posterior Pelvic Recurrence of Rectal Carcinoma. 44th Annual Meeting of Korean Society of Coloproctology, Gwangju, Korea, April 2, 2011, lecture.

Ishiguro S, Uehara K, Yamamoto S, Fujita S, Akasu T, Moriya Y, Nagino M. Early recurrence after simultaneous colorectal and hepatic resection is associated with poor prognosis in synchronous colorectal liver metastasis. Society of Surgical Oncology 64th Annual Cancer Symposium, San Antonio, USA, March 4, 2011, poster.

Akasu T. Long-term safety of laparoscopic complete mesocolic excision with central vascular ligation for right colon cancer. 2011 Konkuk International Colorectal Cancer Symposium, Seoul, Korea, September 16, 2011, lecture.

Akasu T. Risk factors for anastomotic leakage following intersphincteric resection for very low rectal adenocarcinoma. 2011 Konkuk International Colorectal Cancer Symposium, Seoul, Korea, September 16, 2011, lecture.

Akasu T. Prognosis of patients with posterior pelvic and distant recurrence who underwent abdominal sacral resection and distant metastasectomy. 2011 Konkuk International Colorectal Cancer Symposium, Seoul, Korea, September 16, 2011, lecture.

Akasu T. Is surgical resection justified for stage IV colorectal cancer patients having bilobar hepatic metastases?—an analysis of survival of 77 patients undergoing hepatectomy. 2011 Konkuk International Colorectal Cancer Symposium, Seoul, Korea, September 16, 2011, lecture.

Akasu T. Validation of the histone methyltransferase EZH2 as a therapeutic target for colorectal cancer and as a prognostic marker. 2011 Konkuk International Colorectal Cancer Symposium, Seoul, Korea, September 16, 2011, lecture.

Akasu T, Yamamoto S, Takawa M, Inada R, Motohashi H, Sato K, Fujita S, Moriya Y. Long-term Safety of Laparoscopic Complete Mesocolic Excision with Central Vascular Ligation for Right Colon Cancer. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Tokyo, Japan, November 11, 2011, oral.

Akasu T. Surgery and Adjuvant Chemotherapy for Rectal Cancer in Japan. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Tokyo, Japan, November 12, 2011, lecture.

Masashi Takawa, Takayuki Akasu, Hideaki Motohashi, Seiichiro Yamamoto, Ryo Inada, Kazuhito Sato, Shin Fujita, Yoshihiro Moriya. Long-term results of Intersphincteric Resection for Very Low Rectal Cancer. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Tokyo, Japan, November 10, 2011, oral.

Hideaki Motohashi, Takayuki Akasu, Masashi Takawa, Seiichiro Yamamoto, Kazuhito Sato, Ryo Inada, Shin Fujita, Yoshihiro Moriya. Early Results of Total Colectomy and Ileorectal Anastomosis for Familial Adenomatous Polyposis: Retrospective Comparison of Hand-Assisted Laparoscopic versus Open Surgery. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Tokyo, Japan, November 10, 2011, oral.

Sato K, Akasu T, Motohashi H, Takawa M, Inada R, Yamamoto S, Fujita S, Moriya Y. Prognosis of Patients with Posterior Pelvic and Distant Recurrence Who Underwent Abdominal Sacral Resection and Distant Metastasectomy. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Tokyo, Japan, November 10, 2011, poster.

赤須孝之、山本聖一郎、高和 正、本橋英明、稲田 涼、藤田 伸、森谷宜皓、進行結腸癌に対する腹腔鏡下 complete mesocolic excision (CME) の短期および長期成績に関する検討、第 111 回日本外科学会、2011、5.26-8、国際ビデオシンポジウム (2)。

高和 正、赤須孝之、山本 聖一郎、稲田 涼、本橋英明、藤田 伸、森谷宜皓、超低位直腸癌に対する Intersphincteric resection (ISR) の治療成績からみた術式と適応、第 111 回日本外科学会、2011、5.26-8、ワークショップ (4)。

山本 聖一郎、赤須孝之、藤田 伸、稲田 涼、森谷宜皓、下部直腸、肛門管癌に対する腹腔鏡手術の治療成績。第 111 回日本外科学会、2011、5.26-8、サージカルフォーラム (75)。

佐藤一仁、赤須孝之、三宅基隆、高和 正、本橋英明、山本聖一郎、飯沼 元、拡散強調 MRI を用いた直腸癌術前リンパ節転移診断の精度、第 111 回日本外科学会、2011、526-8、ポスターセッション (21)。

金光幸秀

Yamaguchi, T., Kinugasa, Y., Shiomi, A., Moritani, K., Tomioka, H., Tsukamoto, S., Bando, E., Terashima, M., Risk factors of lateral pelvic lymph node metastasis in rectal cancer; based on preoperative clinicopathological factors, ISW2011, 横浜, 2011. 8. 28-9. 1.

金光幸秀、平井 孝、小森康司、清水泰博、佐野 力、伊藤誠二、千田嘉毅、三澤一成、伊藤友一、加藤知行：解剖学的層構築を意識した重点領域に対する側方郭清術、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7-13-15.

金光幸秀、小森康司、石黒成治、清水泰博、佐野力、伊藤誠二、安部哲也、千田嘉毅、三澤一成、伊藤友一、植村則久、右側結腸癌に対する non-touch isolation technique、第 73 回日本臨床外科学会総会、東京、2011. 11. 17-19.

金光幸秀、小森康司、石黒成治、清水泰博、佐野 力、伊藤誠二、安部哲也、千田嘉毅、三澤一成、伊藤友一、植村則久、右側結腸癌に対する non-touch isolation technique、第 73 回日本臨床外科学会総会、東京、2011. 11. 17-19.

金光幸秀、小森康司、石黒成治、Stage IV 大腸癌手術治療対象例の予後予測モデル、第 75 回大腸癌研究会、東京、2011. 7. 8.

金光幸秀、小森康司、石黒成治、郭清効果およびリンパ節転移予測からみた側方郭清適応規準の妥当性、第 74 回大腸癌研究会、福岡、2011. 1. 21.

絹笠祐介

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、坂東悦郎、金本秀行、寺島雅典、上坂克彦、直腸癌手術手技と術後機能障害、第 111 回日本外科学会定期学術集会、東京、2011. 5. 26-28 (震災のため誌上開催).

山口智弘、森谷弘乃介、富岡寛行、塚本俊輔、塩見明生、坂東悦郎、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典、絹笠祐介、直腸癌における側方リンパ節転移の危険因子～術前に明らかな臨床病理学的因子での検討～、第 111 回日本外科学会定期学術集会、東京、2011. 5. 26-28 (震災のため誌上開催).

古角祐司郎、絹笠祐介、相川佳子、松本哲、賀川弘康、別宮絵美真、渡部顕、森谷弘乃介、富岡寛行、塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、坂東悦郎、寺島雅典、金本秀行、上坂克彦、Stage III 大腸癌における予後因子の検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会 2011、東京、2011. 5. 26-28 (震災のため誌上開催).

賀川弘康、絹笠祐介、森谷弘乃介、富岡寛行、塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、坂東悦郎、金本秀行、寺島雅典、上坂克彦、硬膜外麻酔を用いない腹腔鏡下大腸切除術、第 111 回日本外科学会定期学術集会、東京、2011. 5. 26-28 (震災のため誌上開催).

賀川弘康、絹笠祐介、大石琢磨、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、渡部顕、別宮絵美真、相川佳子、松本哲、高柳智保、前田哲生、伊江将史、中島孝、下田忠和、腫瘍先進部における低分化所見と線維化所見、第 75 回大腸癌研究会、東京、2011. 7. 8.

山口智弘、絹笠祐介、塩見明生、塚本俊輔、富岡寛行、森谷弘乃介、膜播種を伴う原発性大腸癌の治療方針、第 75 回大腸癌研究会、東京、2011. 7. 8.

赤井隆司、遠藤健、豊島 明、山本満雄、絹笠祐介、篠崎浩治、杉原健一、Stage III 結腸癌術後補助療法としての UFT/LV と TS-1 の第 III 相試験 (ACTS-CCtrial) : 安全性に関する中間解析、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、金本秀行、坂東悦郎、寺島雅典、上坂克彦、側方リンパ節転移を伴う直腸癌に対する自律神経・内腸骨血管合併切除を伴った側方郭清の手技、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

塩見明生、絹笠祐介、山口智弘、塚本俊輔、富岡寛行、森谷弘乃介、金本秀行、上坂克彦、坂東悦郎、寺島雅典、腹腔鏡下 Intersphincteric resection (LAP-ISR) の手技とピットフォール、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、森谷弘乃介、富岡寛行、坂東悦郎、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典、絹笠祐介、大腸癌に対する機能温存尿路変向術の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

山口智弘、塩見明生、塚本俊輔、森谷弘乃介、坂東悦郎、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典、絹笠祐介、CT 画像を用いた直腸癌側方リンパ節転移至適診断基準の検討、第 66 回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011. 7. 13-15.

山口智弘、絹笠祐介、塩見明生、森谷弘乃介、富岡寛行、塚本俊輔、坂東悦郎、金本秀行、寺島雅典、上坂克彦、原発性直腸癌における側方リンパ節転移の危険因子について、第 9 回消化器外科学会大会、福岡、2011. 10. 22-23.

塩見明生、絹笠祐介、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、寺島雅典、金本秀行、上坂克彦、肥満を有する直腸癌患者への腹腔鏡下低位前方切除術の問題点、第 9 回消化器外科学会大会、福岡、2011. 10. 22-23.

渡部 顕、山崎健太郎、絹笠祐介、森谷弘乃介、塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、坂東悦郎、金本秀行、寺島雅典、上坂克彦、切除不能大腸癌に対する予防的原発巣切除の治療成績、第 49 回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011. 10. 27-29.

塩見明生、絹笠祐介、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、坂東悦郎、寺島雅典、金本秀行、上坂克彦、下部直腸・肛門管癌に対する Intersphincteric resection (ISR) の腫瘍学的成績および局所再発危険因子の検討、第 73 回日本臨床外

科学会総会、東京、2011. 11. 17-19.

石井正之、東山洋、坂野茂、小柴孝友、上原徹也、小泉直樹、古角祐司郎、岡ゆりか、山本正之、絹笠祐介、大腸癌骨盤内再発の治療、第 73 回日本臨床外科学会総会、東京、2011. 11. 17-19.

塚本俊輔、森谷弘乃介、山口智弘、塩見明生、絹笠祐介、大腸癌の肝肺転移に対する完全切除例の検討、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、腹腔鏡下超低位直腸切除のための肛門直腸移行部の解剖、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、腹腔鏡下右側結腸癌手術の成績と胃結腸静脈幹周囲のD3 郭清手技、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

塩見明生、絹笠祐介、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、賀川弘康、別宮絵美真、相川佳子、高柳智保、松本哲、前田哲生、下部直腸・肛門管癌に対する Intersphincteric resection (ISR) の治療成績、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

森谷弘乃介、絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、賀川弘康、別宮絵美真、渡部頤、松本哲、相川佳子、高柳智保、前田哲生、当院における横行結腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡手術の手術成績の比較、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

賀川弘康、絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、渡部頤、別宮絵美真、高柳智保、相川佳子、松本哲、前田哲生、Stage II 大腸癌における再発危険因子の病理学的検討、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

山口智弘、絹笠祐介、塩見明生、塚本俊輔、森谷弘乃介、賀川弘康、渡部頤、別宮絵美真、相川佳子、高柳智保、松本哲、前田哲生、直腸肛門管癌術後局所再発症例における再発部位別の治療成績、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

渡部頤、絹笠祐介、森谷弘乃介、塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、看護必要度から見た大腸癌術後の至適在院日数の検討、第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2011. 11. 25-26.

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、坂東悦郎、寺島雅典、腹腔鏡下直腸癌手術における骨盤内筋膜解剖と剥離層の選択、第 24 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2011. 12. 7-9.

渡部頤、絹笠祐介、森谷弘乃介、塚本俊輔、山口智弘、塩見明生、坂東悦郎、金本秀行、寺島雅典、上坂克彦、手術ビデオから記録した手術操作時間を使った learning curve による手術定型化の評価、第 24 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2011. 12. 7-9.

塩見明生、絹笠祐介、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、寺島雅典、坂東悦郎、金本秀行、上坂克彦、左側結腸癌に対する腹腔鏡手術における困難例の検討 脾彎曲授動操作の定型化が必要である、第 24 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2011. 12. 7-9.

絹笠祐介、塩見明生、山口智弘、塚本俊輔、森谷弘乃介、坂東悦郎、寺島雅典、腹腔鏡下低位前方切除術における直腸切離デバイスの適切な選択—解剖体を用いた検討から、第 24 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2011. 12. 7-9.

塚本俊輔、森谷弘乃介、山口智弘、塩見明生、絹笠祐介、直腸カルチノイドに対する腹腔鏡下手術の短期成績の検討、第 24 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2011. 12. 7-9.

佐藤敏彦

須藤剛、佐藤敏彦、他：大腸癌における腹腔内洗浄細胞診の臨床病理学的検討、第 111 回日本外科学会定期学術集会、2011. 5. (震災のため誌上開催)

須藤剛、佐藤敏彦、他：当科における直腸局所切除術例の検討、第 74 回大腸癌研究会、福岡、2011.

須藤剛、佐藤敏彦、他：大腸 SM 癌における先進部低分化胞巢の臨床病生理学的検討、第 75 回大腸癌研究会、東京、2011.

須藤剛、佐藤敏彦、他：当科における大腸癌洗浄細胞診と腹膜転移例の臨床病生理学的検討、第 66 回日本消化器外科学会、名古屋、2011.

須藤剛、佐藤敏彦、他：X E L O X 土ベバシツマブ療法における注射部位反応と血管痛についての検討、第 49 回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011.

大植雅之

大植雅之、能浦真吾、真貝竜史、宮代 勲、今田慎也、末田聖倫、竹内洋司、杉本直俊、飯石浩康、局所高度進行直腸癌 (Outside of TME) に対する術前化学放射線療法を用いた治療戦略、第 66 回大腸肛門病学会、東京、2011. 11. 25-26.

瀧井康公

瀧井康公、丸山 聡、松木 淳、野村達也、中川 悟、藪崎 裕、土屋嘉昭、梨本 篤、田中乙雄、(パネルディスカッション) 切除不能・困難な大腸癌肝転移に対する抗癌剤治療と切除率に関する後ろ向き検討と前向き試験、第 66 回日本消化器外科学会、名古屋、2011. 7. 13-15.

伴登宏行

Bando, H., Kotake, M., Yamada, T., Laparoscopic lateral pelvic lymph node dissection for lower rectal cancer, 19<sup>th</sup> International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery, Torino, 2011.6.15-18.

伴登宏行、下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下側方骨盤リンパ節廓清、第73回日本臨床外科学会総会、東京、2011.11.17-19.

石山泰寛、上田秀保、松永 正、北村祥貴、山本道宏、小竹優範、稲木紀幸、黒川 勝、伴登宏行、山田哲司、当科における単孔式内視鏡下人工肛門造設術の利点と欠点、第73回日本臨床外科学会総会、東京、2011.11.17-19.

小竹優範、松永 正、石山泰寛、北村祥貴、金子真美、山本道宏、稲木紀幸、黒川 勝、伴登宏行、山田哲司、進行再発大腸癌に対する FOLFOX 療法から XELOX 療法への切り替え症例の検討、第49回日本癌治療学会学術集会、2011.10.27-29.

小竹優範、伴登宏行、黒川 勝、山田哲司、右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術、第66回日本大腸肛門病学会学術集会、2011.11.25-26.

久保義郎

久保義郎、小島誉也、羽藤慎二、野崎功雄、大田耕司、栗田 啓、腹腔鏡補助下結腸切除術の低侵襲性についての再検討、第25回四国内視鏡外科研究会、松山、2011.2.19.

久保義郎、小島誉也、羽藤慎二、野崎功雄、大田耕司、棚田 稔、栗田 啓、腹腔鏡補助下大腸切除術における肥満の影響、第111回日本外科学会定期学術集会、東京、2011.5.27(震災のため誌上開催)。久保義郎、小島誉也、羽藤慎二、野崎功雄、大田耕司、棚田 稔、栗田 啓、腹腔鏡補助下大腸切除術における術後在院日数の検討、第66回日本消化器外科学会総会、名古屋、2011.7.14.

久保義郎、小島誉也、羽藤慎二、野崎功雄、大田耕司、棚田 稔、栗田 啓、下部直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術の検討、第16回中国四国内視鏡外科研究会、広島、2011.9.2.

森 武生

岩崎善毅、森 武生、当院における外科研修の試み、都立病院外科集談会、2011、12.2.

後藤功一

Yamaguchi, Y., Goto, K., Yoshino, T., Nagai, S., Nakachi, K., Ohtsu, A., Ohe, Y., Analysis of the incidence of severe adverse events in Japanese cancer patients receiving outpatient chemotherapy, 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会、横浜、2011.7.21-23.

後藤功一、我が国の主要がん拠点病院における外来化学療法の実施状況について、第49回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011.10-27-29.

市川智里、後藤功一、他、外来化学療法ホットラインの有効性に関するアンケート調査、第9回日本臨床腫瘍学会学術集会、横浜、2011.7.21-23.

藤坂保仁

Fujisaka, Y., First in human phase I study of the anti-angiogenic vaccine (OTS11101) targeting VEGFR-1 in patients with solid tumors, 第9回日本臨床腫瘍学会総会、横浜、2011.7.21-23.

梶原猛史

松本俊彦、仁科智裕、竹治 智、梶原猛史、浅木彰則、壺内栄治、堀伸一郎、灘野成人、谷水正人、井口東郎、フッ化ピリミジン系抗癌剤に治療抵抗性の切除不能進行・再発胃癌に対する塩酸イリノテカン単剤の治療成績、第9回日本臨床腫瘍学会学術集会、横浜、2011.7.

梶原猛史、仁科智裕、森ひろみ、小暮友毅、山際有美子、重篤な有害事象の発生調査から見てきた外来化学療法における医師の役割、第9回日本臨床腫瘍学会学術集会、2011.7.21-23.

武田晃司

Takeda, K., Randomized phase iii trial comparing weekly docetaxel (dtx) and cisplatin (cddp) combination (dp) with triweekly dtx alone in elderly patients with advanced non-small cell lung cancer (nslcl): results of an intergroup trial of jcog0803/wjog43071, 14th world conference on lung cancer, amsterdam, 2011, 7.2-7.

岡田秀明、平良高一、徳永伸也、駄賀晴子、武田晃司、津田 学、宮本奈津子、西島正剛、住谷充弘、少路誠一、経口抗がん薬治療中の非小細胞肺癌患者における重篤な有害事象についての検討、第94回日本肺癌学会関西支部、大阪、2011.7.9.

酒井洋、岡本 勇、山本信之、一瀬幸人、根来俊一、大松広伸、野上尚之、武田晃司、光富徹哉、笠原寿郎: NSCLCに対するABI-007/CBDCA vs PTS/CBDCA の第Ⅲ相国際共同試験—日本人の層別解析、第49回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011.10.27-29.

武田晃司、高齢者肺癌に対する化学療法—日本からの Evidence を考える—、第52回日本肺癌学会総会、大阪、2011.11.3-4.

光岡茂樹、阿部徹哉、武田晃司、横山 晶、大江裕一郎、工藤新三、一瀬幸人、中村新一郎、安藤昌彦、中川和彦、西條 長宏、田村友秀、進行非小細胞肺癌の高齢者患者に対してドセタキセル(D)とドセタキセル・シスプラチン(P)の

第三相無作為化比較試験、第52回日本肺癌学会総会、大阪、2011.11.3-4.

田中洋史、横山 晶、河原正明、岡本浩明、大江裕一、澤 祥幸、新海 哲、森 清志、武田晃司、石倉聡、安宅信二、西條 長宏、田村友秀、高齢者切除不能局所進行型非小細胞肺癌に対する胸部放射線単独と低用量連日 CBDCA+胸部放射線同時併用療法とのランダム化比較試験(JCOG0301)、第52回日本肺癌学会総会、大阪、2011.11.3-4.

江崎泰斗

江崎泰斗、(シンポジウム)安全で適正な化学療法システムの確立：医師・薬剤師・看護師の役割分担 チーム医療としての化学療法における医師の役割、第9回日本臨床腫瘍学会学術集会、横浜、2011.7.21-23(23).

伊藤一人

Kobayashi, M., Ito, K., Miyakubo, M., Suzuki, K., Predictive impact of free PSA/total PSA (%fPSA) on the development of prostate cancer in men with baseline PSA lower than 2.0ng/mL:baseline PSA-adjusted case control study, 31st Société Internationale d'Urologie, Berlin, 2011.

Miyakubo, M., Ito, K., Yamamoto, T., Suzuki, K., Diagnostic significance of [-2]proPSA total and transition zone prostate volume adjusted PSA-related indices in Japanese men with total PSA in the 2.0 to 10.0ng/ml range, 26th Annual Meeting of European Association of Urology, Vienna, 2011.

(書籍)

永井宏和

永井宏和、低悪性度B細胞性リンパ腫の治療(濾胞性リンパ腫、MALTリンパ腫など) 「白血病 リンパ腫 骨髄腫—今日の診断と治療 第4版」、木崎昌弘編、中外医学社、2011、352-61.

永井宏和、低悪性度非ホジキンリンパ腫 「現場で役立つ 血液腫瘍治療プロトコール集 改訂版」、直江知樹編、医薬ジャーナル社、2011、102-23.

齋藤典男

伊藤雅昭、齋藤典男、ESR/Miles手術、“Team J”が贈る最先端の内視鏡下大腸手術 Teg Cutting Edge of Minimally Invasive Colorectal Surgery、奥田準二編、永井書店、大阪、2011、175-95.

赤須孝之

赤須孝之、わが国における大規模無作為化比較試験-7、N-SAS-CC、ACTS-CC、In:大村健二 他 編、オンコロジャー・クリニカルガイド 消化器癌化学療法3版、東京、南山堂、2011、139-48.

赤須孝之、大腸領域の合併切除、前立腺・精嚢の切除、In:上西紀夫 他 編、Digestive Surgery Now No. 14、東京、メジカルビュー社、2011、165-173.

赤須孝之、大腸癌。In:横田千津 他 編、病気と薬 パーフェクトブック2011、東京、南山堂、2011、1657-66.

後藤功一

永野達也、後藤功一、分子標的治療薬と副作用対策の実際-循環器障害 p166-172、分子標的治療薬の副作用マネジメント、弦間昭彦編、南江堂、東京、2011.

永野達也、後藤功一、分子標的治療薬と副作用対策の実際-循環器障害 p166-172、分子標的治療薬の副作用マネジメント、弦間昭彦編、南江堂、東京、2011.

鈴木進子、後藤功一、EGFR-TKIが有効であった症例で、一部の病巣が増悪してきました。どのような方針で治療しますか? 254-256、肺癌診療Q&A—一つ上を行く診療の実際-、弦間昭彦編、中外医学社、東京、2011.

山口葉子、後藤功一、再発小細胞肺癌肺がんの治療戦略 p76-80、インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肺がん抗悪性腫瘍薬-改訂版、西條長宏編、医薬ジャーナル社、東京、2011.

杉山栄里、後藤功一、小細胞肺癌 p108-110、インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肺がん-改訂4版、西條長宏、加藤治文編、医薬ジャーナル社、東京、2011.

室 圭

室 圭、オンコロジストはこう治療している、食道がん診療と化学療法、坂田優 監修、ヴァンメディカル、2011.

室 圭、進行・再発大腸癌に対する化学療法の目的と実際、コンセンサス癌治療、へるす出版、2011、10(1):16-20.

室 圭、大腸癌 XELOX療法、癌化学療法と制吐薬使用マニュアル[消化器癌編]、メディカルレビュー社、2011、38-9.

室 圭 編、がん化学療法レジメンごとの看護シート&患者ダイアリー集、メディカル出版、2012 2月.